

曇り空とばす歓声！

第四十一回 港区民まつりに二万二千人

曇り空を吹き飛ばすかのように、区民の笑顔と歓声が溢れました。十月十一日(日)に八幡屋公園一帯で開催された「第四十一回港区民まつり」には約二万二千人が来場。朝十時から午後三時まで、「防災」をテーマにした展示やクイズや体験コーナー、地域対抗の運動競技、歌や踊りの舞台発表、地域団体の模擬店等々、多彩な内容を楽しみました。公募により構成された「第四十一回港区民まつり実行委員会」と港区役所が主催。

「防災」テーマに多彩な催し、校下対抗は池島V

前夜の激しい雨のあともお晴れ間を見せない空の下、主会場である同公園多目的広場では、

早くも飲食模擬店の呼び込みなどが飛び交う中、午前十時から開会式が行なわれました。

◆「心」のイベントにて武智実行委員長

まず武智虎義たけちとらよし 実行委員長(港区コミュニティ

育成会議議長)が開会宣言に立ち、「待ちに待った区民まつり。街を愛する心の強さでは港区

は二十四区中、一番。コミュニティ活動が非

常に盛んだ。四十一回を迎えて年々素晴らしい催しになっている。少しでも心のこもったイベントにと実行委員会を十回も重ねた。悔いのな

い運営と素晴らしい結果を確信している」と成功への期待を表明。市岡中学校吹奏楽部が高らかにファンファーレを響かせました。

◆「区民主体」と田端区長

続いて田端尚伸^{ひのぶのぶ}港区長が主催者あいさつに立ち「過去には八月の夕方から夜にこの広場で開催していたが、一年前から公園一帯で秋の開催となった。公算で実行委員会を作って区民主体の運営へ転換を果たすと共に、それまでの良い所は引き継ぎながらモデルチェンジを図ってきた。今日は全地域から模擬店が出され、防災をテーマに色々なブースが設けられ、地域対抗で運動会が行なわれ、区老連はさんま祭りを開く。また区政九十周年、戦後七十年ということで、戦災や高潮から復興してきた港区の歴史を



→開会式で「区民の情熱を強調する武智実行委員長(上)と「区民主体」を強調する田端区長(下)

展示したブースもあり、区の歴史を振り返る機会にもなればと願う。一日楽しみなが港区をさらに盛り上げて下さい」と呼びかけました。

◆舞台や広場で歌や踊り

このあと舞台や広場では市岡中吹奏楽部による「ヤングマン」などの演奏を皮切りに、池島保育園児の「遊戯」、田中保育所園児の「ぶどう太鼓」、各校下女性会の「歌と踊り」、校下対抗の運動競技「みなりんピック」、個人自由参加の「スリッパ飛ばし」「けむり避難キャタピー競争」「防災三択クイズ」などが次々と行なわれました。

このうち「みなりんピック」は、一〇二二年まで隔年開催だった「港区民運動会」が形を変えながら続いてきた校下対抗競技大会の最新バージョン。旗・幟^{のぼり}や仮装や鳴り物を駆使した各校下テントからの賑やかな応援を受けて、団体競技二種目で合計点を競いました。

綱引きでは気迫と持続力が、ジャンボ縄跳びではタイミングと瞬発力が、紅白玉入れでは正確さと迅速さが、それぞれ問われましたが、いずれも事前練習に時間を割いた校下の好成績が目立ちました。集計の結果、縄跳びで断突^{だんとつ}の四

「ヤングマン」を演奏する市岡中吹奏楽部(上)と舞台の出し物にカメラを向ける区民(下)



十七回をマークした池島が優勝、綱引きでトップタイだった市岡が準優勝、最後の玉入れで追いつけた三先が三位に入りました。池島の優勝は三度目。市岡は四連覇ならず。

また「防災」をテーマに行なわれた「防災三択クイズ」には高齢者から子供まで数十人が参加。「災害時伝言ダイヤルの番号は？」(正解は「一二二二」)「消火器の操作で最初にやることは？」(正解は「安全ピンを抜く」)「エレベーター内で地震に遭った時に最も適切な行動は？」(正解は「全ての階のボタンを押す」)「阪神大震災で公助によって助けられた人の割合は？」(正解は「五分未満」)などの問題に対して、示さ

れた三答のうち正解と思つ答の番の区画へそれぞれが移動し、不正解者が振り落とされていく形で進行。最終問題の「南海トラフ地震発生から津波が港区へ到達するまでの予想時間は？」（正解は「二四分」には七名残り、大きな拍手を浴びながら賞品を受け取りました。

◆ 飲食模擬店などに人だかり

こうした催しが行なわれている間、主会場の多目的広場では各小学校下の地域活動協議会（地活協）による「クッキー」「チヂミ」「おにぎり」「だごせん」などの飲食模擬店や、NTT、市港警局、港消防署などによる「レスキューロボ操縦体験」「ミニ消防車」「起振車」「水中歩行



→地域の結束が問われた校下対抗競技。上は市岡の綱引き、下は三先のジャンボ縄跳び

体験」などの防災コーナー、さらにポトネット（港区障害者施設連絡会）による「自主製品展示・販売」、港区老人クラブ連合会による「東北復興支援さんま祭り」（二十八頁に記事）などに人だかりができていました。

◆ 遊びコーナーなどに子供の歓声

一方、同公園の芝生広場では、港区社会福祉協議会、磯路地活協などの団体による「簡単防災マスク作り」「や・カーリング」などのブースや、日思庵などの個人グループによる「似顔絵屋」「占い」などの露店、さらにシユライカー大阪、港区役所などの団体・官公署による「フットサル体験」「公園でいろいろな虫を探そう！」「ミニス」などの遊びコーナーに子供たちの歓声が響いていました。

また小公園や大阪・プール裏広場や通路では、大阪経節青年団いっしょ会、みなと生協診療所、築港町猫倶楽部などのグループによる「かつおぶし手削り体験」「健康チェック」「手作り雑貨」などのフリーマーケットや、市岡下水処理場、保健福祉センター、港区役所、港警察などの官公署・公的団体による「下水道」「体力測定」「港

→地域の団結が問われた校下対抗競技。上は市岡のジャンボ縄跳び、下は池島の応援団



区の戦後七十年の記録展示」「防犯 青ハト展示」などの啓発ブースがそれぞれ設けられ、家族連れなどで賑わっていました。

◆ 「最高の内容だった」と実行委員長

やがて午後三時前からの閉会式では武智実行委員長が閉会の言葉に立ち、「雨に対する緊張の中、皆さんの情熱、これまでの積み重ねによって、最高の内容となった。港区は心の触れ合いを大切にしながら未来を作っていく街であることが改めて確信できた」と来場者・関係者の協力と支援に感謝を述べました。また、みなりんピックの表彰も行なわれ、優勝の池島、準優勝の市岡、二位の三先の各チームに実行委員長と

区長から賞状と記念品が贈られました。

◆「陰」裏方の働き

「いつ」して多岐「何」の内容をもつて活況の裡に終った区民まつりですが、その全時間を通じて進行・放送・記録・警備・清掃・ごみ分別線引き・器具撤去・賞品渡し・得点表示などに汗を流すスポーツ推進委員や青少年指導員、青少年福祉委員、子ども役員、町会役員を始め、郵便局や「社福」波除福祉会等を含めた実行委員会の働きがあり、本部を中心に互いに連絡をとり合いながらそれぞれの役割を果たしていました。

◆「安心して遊べる」と池島の四十代女性

開催中や終了後に来場者や関係者に感想を訊



→大勢の参加で活況だった「防災三択クイズ」①
と、子供の参加が目立った「水中歩行体験」②

きました。このうち綱引きを終えた池島チームの四十代女性二人（MさんとTさん）は「地域対抗といつのでとても力が入り、もうふうふう。」
「回戦で負けたけど、楽しかったです。普段は子ども会のお世話をしています。このまつりは、年一回、港区じゅつの人が集まって、無心に安心して遊べる、とても素晴らしい催しだと思います」と爽やかな表情で話していました。

◆「楽しかった」と波除の六十代男性

ジャンボ縄跳びを終えた波除チームの錦谷寿久さん（六二）は「青少年福祉委員をして十二年になります。今日は警備係をしていましたが、（縄跳びの）人数が足りなくなり、以前に経験があるといつので、急ぎょ縄持ち役に駆り出されました。練習なしのぶっつけ本番では（跳躍回数ゼロも）仕方ありません（笑）。でも楽しかったですよ」と話していました。

◆「防災に力」と弁天の七十代男性

防災三択クイズで最後まで残った金子修三さん（七七）＝弁天三丁目東町会会長＝は「普段から防災関係の講座に出たりして知識を蓄えていたのが良かったでしょう。町会では近隣で

「かなりの衝撃に悲鳴も上がった起振車」とシートベルトコンビンサー（模擬衝突体験機）①



の助け合いの大切さを呼びかけたり、班長以上に安全帽を配ったりして、防犯とも結びつけて防災に取り組んでいます」と話していました。

◆「人集まり楽しい」と港晴の六十代男性

また港晴地活協の模擬店前で「昆布うどん、安いよ、いらつしゃい」と天きな声で呼び込みをしていた改野弘正さん（六九）＝デイサービスセンター勤務＝は「普段は社会福祉協議会の防犯の相談係をしています。この模擬店は買い出しなどで一週間くらい前から準備し、昨日の晩も集まりました。去年はごんもおにぎりも売り切れたので、今年は少し多めに用意しました。いつして人が集まるのはいいよ。準

備など大変で忙しいけど、やりがいを感じ、ほんま気持ちいいですわ」と話していました。

◆「やりがいを感じる」元機路の四十代男性

また舞台横の本部テントで記録係として活動していた森下 竜さん(四八)は「区政会議副議長、元機路小PTA会長」は「地域での活動を始めて十年ほど。区民まつりでこの役をするのは一回目です。正確に記録するだけで、特に難しいことはありませんが、落とし物や迷子にも対応する必要があります。けっこう忙しいけれど港区最大の催しを支える大切な役割。やりがいを感じます」と話していました。

◆「前より良くなった」と三先の六十代女性



→にぎわった地域活動協議会の飲食模擬店。上は港晴の昆布うどん、下は市岡の焼きそば

また飲食エリアで長男夫婦や四歳の孫(女児)

「南市岡」と一緒に食事していた銚子原フチ子さん(六八)は「毎年、女性会の踊りを

観に来ていますが、とても良かったです。前の形(三年前までの夏の夜の区民まつりや隔年開催の区民運動会)より賑やかで楽しくなったように思います。「これから孫を(色んな)コーナーで遊ばせてやる予定です」と話していました。

◆「区の歴史わかった」と田中の六十代女性

また「港区の戦後七十年の記録展示」ブースを熱心に鑑賞していた六十代女性「田中」は「こつこつと港区の区画整理の歴史を見ていくとその規模の大きさや区民の熱意が改めて分かります。弁天町駅前はこの歴史を記念する交流会館が建つということですが、ぜひこんな歴史を区民に伝える場にしてほしいと思います。(会館の内容を話し合っ)ワーキングでは『区の歴史はネットで観たら』という意見もあるようですが、一体どれだけの人が目にするでしょう。やはり、しっかりと形のある展示の場を設けるべきだと思います」と話していました。

◆「地域結束の優勝」と池島のリーダー

←好評だった「港区の戦後七十年展示」①と、希望者が絶えなかった足裏測定&握力測定②



また「みなりんピック」で優勝した池島チームのリーダー・森直樹さん(六五)は「オリオン書房経営、父親の戦争体験を十月号から連載(今号は休み)は表彰後、『綱引きでは一回戦と二回戦が休みなしで続いて大変疲れ、結果も厳しいものになりましたが、ジャンボ縄跳びでは練習でもめったに達成できなかった四十回を超えて一気に浮上できました。市岡の連覇を阻止しよう」と九月半ばから毎週木曜夜に池島小で一時間半〜一時間の練習を重ね、今朝も八時から縄跳び特訓をした成果が表われたと思います。また今年の池島小創立四十周年に花を添えよつという気持ちや、毎年の池島ふれあいまつりで發揮

される地域の結束や連携も、優勝への大きな要因になったように感じます」と話していました。

◆「安全対策に気を使った」と本部長

また舞台袖そでのテント内で本部の要かなめとして忙しく動いていた港区民まつり実行委員会事務局長・仲達宏之なかくひろゆきさん(六二)「港区民センター館長

Ⅱはその後、「事務局局長に就いたのは一回目です。これから校下対抗競技の盛り上がりなどを見て練習の積み重ねや普段の地域の繋がりつながりが感じられ、感動しました。本部としては雨対策と安全対策に一番気を使い、救護班とも連携して泥濘ぬかるみに足を取られて転倒するなどの事故がないよう、前夜の雨で溜った水たまりをバケツで汲み出



「待ちの行列ができた「鯉節削り体験」(上)と、幼児に人気抜群だった「ミニS」(下)」

し、スポンジで吸い取り、何とか競技できる状態にできてホッとしています。全体としては大変良かったと思いますが、毎年内容が変わる中、実務的な詰めをもう少し落着いて細部に亘わたってできれば、さらに田滑に運営できるのではないかと思っています」と話していました。



「防災」をテーマに掲げてさらに進化した形で開催された「港区民まつり」。出番待ちの老若男女が冗談を言い合つ姿や、飲食テント内で家族が和やかに飲食する光景からは、失われつつある地域内や世代間や家庭内の「コミュニケーションの醸成じょうせい」にこのイベントが果たしている役割が改めて感じられました。

加えて、①従来の区民まつりと区民運動会を合体させた新スタイルになってから内容が非常に多彩になり、賑わいが増したこと②単に面田ければよいという安易な方向へ流されず、区民の意識向上を目的に、昨年において『防災』をテーマに設定したこと③区民主体の運営を定着させるため、昨年に続いて実行委員会形式にしたこと一に対しては、港区長をはじめとする関

「まつりを支えた裏方さんたち。上はごみステーション係、下は競技用具そろえ係



係者の協力と努力と英断の賜物として大いに歓迎できることです。

その上で今後の課題としては、①多くの催しが広い会場で同時進行するため、せっかく参加しても一部しか体験できないという不満を少しでも解消すること②終っ後に予算・決算や実行委の総括内容を公表するなどして区民主体の意識をさらに根付かせること③「実行委」メントにもあったように「実務レベルでの詰めをよりきめ細かくして運営の一層の田滑化を図ること」などが考えられますが、これらを一歩一歩改善・修正し、真に区民まつりの名にふさわしい行事へと発展させていくことが期待されます。

あさやけ

「もともと議会制というのは、言論を戦わせ、物事に真実や道理があるかどうか、正しいかどうかを国民に明らかにするものによって、国家と民衆の利益や幸福を実現するために開くのである。だから選挙の結果どんなに多数を占めても間違った事を正しい事に変えることはできず、事実と道理の前にはどんな多数党でも従わねばならない。ここに議会の価値がある。……ところが今は、表決で多数を占得たらそれで満足する傾向がある。しみの議事堂ではおかしなことで、実際は表決室になってしまっている」。これは、新聞記者を経て終生衆議院の議席にあり、第「軍閥・官僚政治を諷刺、普選運動・護憲運動の立役者であった尾崎行雄（一八五九―一九五四）の著『憲政の危機』（一九〇年）からの一文（筆者意訳）です。▼折しも「戦争法」という希代の「国シムシステム」を、自公なりの「多数党」が憲法という「事実と道理」を踏み違えて成立させたのは記憶に新しいところ。大混戦の議場中

継を見た限りでも、国会が尾崎の言う「表決室」と化したのを見せつけられたものでした。その嘆きも冷めぬ今月、ダブル選たけなわの大阪では、何とこの「表決」で半年前に死んだはずの地域破壊「ラン」都構想が怪しげな臭いを放ちながら再び純朴な市民を惑わしています。▼そこで今流行りの「思いつきテスト」を一題。一九七五年にテレビで流れた「くさい臭いは元から絶たなきゃダメ」は何のCM「ピー」だった？ 答はジョーンズのトイレ消臭剤。たかがCMながら、目先の悪を征してもその根を伐らぬ限り臭いっけは続くという、真実をついた句に感心した読者も多かったことでしょう。▼そこで第一問。ではこの都構想＝橋下ガフが放つ臭いの成分は？ 正解は、①米財界の露払い（カジノの受け皿作りなど）②自公政権の補完（戦争法やTPP賛成など）③公の否定（地下鉄民営化など）④労働者敵視（組事務所追い出しなど）⑤庶民蔑視（敬老バス警沢呼ばわりなど）⑥弱肉強食（教育に競争原理導入など）⑦独裁（市長の顔見で仕事せよ発言など）⑧倫理破壊（前言「翻し、仲間黒り、政助成金持ち逃げなど」）。どう

です、幾つできましたか。▼では第二問。この有毒ガスを元から絶つ方法は？ 正解は、その発生源である安倍政権とそのまた根源である米財界にも狙いを定めた「あんたらも一緒に消えてんか！ 」「滅菌スプレー」をオール大阪でかけまくること。以上、思いつきテストのちよとした応用問題でした。▼ところで鼻頭の尾崎を憲政の功労者と讃えて「尾崎記念会館」が建てられたのは一九八〇年。十年後の議会開設八十年には議会制民主主義への国民理解を深めるため同館を吸収して「憲政記念館」が完成、現在に至っています。その所在地は、あの戦争法反対デモが埋め尽くした国会議事堂の前庭。そこでは訪れた人々が桜や花木など四季折々の自然を楽しむことができた。▼そこで今月二日の憲法公布に因んで最後の問題。では今後、この記念館に眠る尾崎の鼻につくのは、それら平和と愛国の象徴ともいえる花々の芳香でしょうか、それとも安倍・橋下「シビ」ならぬ「シビ」が放つ戦争と下国の腐敗臭でしょうか？ 答は目のダブル選や来夏の参院選でのオール庶民の奮闘次第ということになりますか。

叫びたいわ！

ながすな よしあき

永砂 義明さん（七七歳 八幡屋）

さよなら橋下「維新」政治

よみがえれ大阪のまち！

橋下「維新」政治は大阪市民に多くの災いをもたらしました。その極め付きは「大阪都構想」です。私たちは五月の住民投票できっぱりとこの「構想」にノーを突き付けましたが、これもあつに十一月二十一日のダブル選挙でも一度持ち出しているとは、まったく許されないことです。ぜひみんなの共同の力で終止符を打つてはなりませんか。

◆ カジノ誘致は人も街も壊す

この構想を通して橋下「維新」が目論んでいる施策で、気になるものは数え上げればきりありませんが、中でも私がどうしても許されない

と考えるのは、大阪にカジノを誘致し、人も街も壊してしまうことです。

政府でさえ「賭博行為は射幸心を助長、勤労の美風を損ない、犯罪を誘発、社会の風俗を阻害する行為として罰則するものとされている」

（二〇一四年十月四日、参議院法務大臣答弁）

との見解を出している中、これを覆そうと正んでいるのが「おおさか維新の会」なのです。

◆ ギャンブル依存症やし経済にも白害

「パチンコ代欲しさに横領や窃盗」「孫が祖母を撲殺して金を奪いパチンコへ」「巨人軍選手が野球賭博」など、ギャンブルが原因で引き起こされる犯罪、事件、自殺、家庭崩壊は後を絶ちませんが、このように、普通の人々が冷静に考えられないことをさせられてしまうのが「ギャンブル依存症」という病気なのです。

また橋下「維新」は「カジノで外国の金持ちにお金を落としてもいい」と言っていますが、日本進出を狙っているカジノ業者のターゲットは日本人の預貯金。市民生活にとっても大阪経済にとっても「白害めって一利なし」であることは明白です。

◆ 笑顔の大阪生活を！

このように、大阪の人を壊し、街を壊すカジノ誘致。どんなことがあっても導入させてはなりません。そうではなく、府内で九九・六割を占める中小企業を支援するとか、府内四百五十カ所の「朝市・直売所」を旺盛にして安全・安心な食べ物の地産地消に貢献するなど、農水産業を含めた、生活に根差した産業政策こそが、いま求められているのではないのでしょうか。ともかくダブル選挙では橋下「維新」の息の根を止めて大阪をよみがえらせ、皆が笑顔で大阪生活を満喫できるよう、力を合わせていきましょう！

国保と労働保険のご相談は民商へ

港民主商工会

パソコンの記帳も民商へ！

港区夕凧2-10-16 ☎6572-7867

こまめセール

介護保険で手すり取付けもします

ひとつでも参上！

スイッチや差込の取替え **3,130円**

エアコン奥まで高圧洗浄 **12,600円**

しげもりムセン

6511-5183

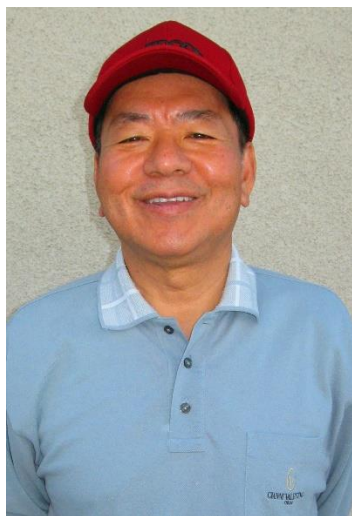
港晴1-8-15

消費税増税→不況が深刻化(恐慌)→税収減→日本沈没

叫びたい！

ここに まことし

小西 正敏さん（六四歳、田中）



介護保険で高齢化 社会を守れるか？

私の母（九十四歳）は再認定申請の結果、九月十日付で要介護度二から五になり、特別養護老人ホームへの入所条件を満たすことができた。しかし利用料の安い特養は何年も待たねばならず、医師常駐の特養では利用料が相当かか

るとのこと。そのため「このまま西区の療養型

病院に世話になるのは母の年齢から難しい。しかし高額を払えない私のような家族はどこへ行けばいいのか」と悩んでいたところ、并大に介護老人保健施設があることを知りました。すぐに出向いて説明を聞いたところ、「今なら空きがある」といつか入所を決め、十月二十日に移りました。①毎間も夜間も看護師が常駐している②病院では使えなかった介護保険が利用できる③リハビリやレクリエーションで家庭復帰が見込める一など考えたからでした。

◆入院者に介護保険のメリットなし

さて、母の場合はこのように、空きがあるという幸運に恵われましたが、私以上に負担を抱えている方がどれだけおられるでしょう。介護保険が適用される介護施設で適用されない病院ではあらゆる点で差があり、入院者の家族にとっては経済的・肉体的・精神的に大変な負担となっているようです。しかも以前の母のように入院して介護サービスを全く受けていない場合でも介護保険料は払い続けなければなりません。普通に考えれば、この間、保険料の減免などが

あつていかなるべきではないでしょうか。

◆介護と医療の区別は無理

とついで、母が要介護二で在宅サービスを受けている間は特に気になりませんでした。が、要介護五になり、治療や介護に先の見えない状態へ突入するや、この制度の矛盾が一気に目についてきたのです。中でも病院利用者には介護保険の恩恵が全くないという問題は重大です。

以前から私は「介護保険は根本的に問題ある制度であり、早晚破綻する」と危惧していましたが、それは、介護や医療は本来、金銭本位のサービスではなく福祉としてその全体を包摂し、在宅か否かを問わず、施設整備も含めて、国と地方自治体が責任をもって取り組むべき課題であると考えていたからです。医療と介護を区別すること自体、元々無理があるのです。

今後ますます進むであろう社会の高齢化。その中でこの制度が医療・介護の全般を担うのは到底無理と考えます。既にその渦中にある方も、今後直面する方も、どうすればこの国民的危機を打開できるか、ぜひ考えて頂きたく、自らの経験を通じて問題提起した次第です。

弱者目線の改善求める

社会保障で区民が区役所に



→ 社会保障全般に亘る港区民の声を港区役所に伝えた大阪社会保障推進協議会「港区役所キヤラバン」＝十月十四日、港区民センター

「弱者の視点に立った改善を」。医療・介護・福祉など社会保障全般に亘る区民の実態と要求を港区役所の担当部署に伝え、施策の改善を求める毎秋恒例の運動「港区役所キヤラバン」が、今年も十月十四日（水）午前、港区民センターで開かれました。市民団体「大阪社会保障推進協議会」が呼びかけ、区民側からは医療・介護・生活保護などの関連団体会員ら十数人が参加、区役所側からは窓口サービス・保健福祉・子育て支援・生活支援などの担当者十数人が出席、一時間（むた）に亘って熱のこもった「話し合い」が行なわれました。

◆ 正規職員の増員など要望

この中ではまず、事前に同協議会から提出されていた質問に対する大阪市役所と港区役所からの回答が文書で示されましたが、その中には次のような回答がありました（答えは大阪市役所。内容は本紙で抜粋・調整）。

「市民に対して責任ある仕事が行なわれるよう非正規ではなく正規職員の増員を行なうこと」→「非正規職員は代替・一時補完などの必要に応じて活用している。危機的な財政状況の

もと、最も効率的な業務の在り方を追求しながら行政サービス提供に努めたい」（人事室）

「国保会計への国の負担率を以前の状態に戻すよう国に要望すること」→「国の負担率低下の一方で様々な措置も講じられてきたが、機会あるごとに引き上げを要望している」（福祉局）

「国保料滞納は生活困窮世帯に多いので、生活保護とつなぐなど区役所内ネットワークを」→「納付相談では生活保護担当などと連携し、必要に応じた窓口案内をしている」（福祉局）

「七十五歳以上の医療費負担を無料に」→「後期高齢者医療制度の中で、六十五歳以上で障害があるなど一定の要件を満たす人には市独自の医療費助成制度を実施している」（福祉局）

「介護保険料の年金天引きによる強制徴収をやめ、国保料のような選択制にする」と→「選択制になると保険料収納率の低下で運営に影響の出ることが懸念される」（福祉局）

「八月から始まった介護サービス利用料の引き上げを撤回するよう国に求めると共に、緊急に軽減策を講じる」と→「低所得者に対する減免措置は国が統一的行なうべきもので、

必要な措置を国に要望していく」(福祉局)

「障害者が高齢になって介護保険の対象となった場合でも一律に介護保険サービスを優先するのではなく柔軟な支給を」→「一律に介護保険を優先させることなく本人の心身の状況等を考慮した支給決定を行なっている」(福祉局)

「生活保護申請者に対して人権無視の対応は行なわない」と→「社会保障や福祉制度を総合的に考慮検討して、本人に最も役立つ方法を探ると共に、申請の意思を確認すれば申請書を交付し、受理している」(福祉局)

「公立幼稚園・保育所の民営化・統廃合はやめる」と→「厳しい財政状況の中、民間でできることは民間に任せる」と→市政改革の考え方を基本に、幼児教育改革の一つとして民営化などを進めている」(子ども青少年局)

◆国民健康保険制度などについて

次いで、文書回答をふまえての質疑応答が行なわれましたが、その中には次のようなやりとりがありました(問い・要望は区民、答えは区役所。内容は本紙で抜粋・調整)。

「短期被保険者証(国保料滞納など)正規の

保険証を取り上げられた世帯に交付される有効

期限ハカ月の保険証について、中学生以下の子がいる世帯などには『できるだけ速やかに接触を試みて手元に届けなさい』と国が通知しているが、未交付世帯にどう働きかけているか」→

「委託業者による電話連絡や家庭訪問などです。接触して事情を把握するように努めている」(窓口サービス課)→「未交付は殺人に等しい。未交付ゼロの市町村もある。受け身でなく能動的姿勢で速やかな交付を」→「福祉局とも相談しながら国の通知に基づいて努力したい」(同)

「府下市町村や大阪市内他区に比べて港区の特定健診やがん検診の受診率が低いのはなぜか」→「特に分析はしていないが区民の意識の問題が大きいと思われる。自ら足を運んでほしい」(保健福祉課)

「扱った大病院の少なさもある」(窓口サービス課)→「健診項目の増加や無料化などで受診率を高めている市町村もあるのでそこから学ぶ点はある」と→「参考にしたい」(画課)

「障害者への紙おむす支給の条件に『排尿排便の意思表示ができる』や『同居人がいる』が命づけられているのはおかしい。意思表示できなく

ても単身でも誰かに介護されているので紙おむすは必要。この条件を付けていない自治体もある」→要望を福祉局に伝えたい」(保健福祉課)

◆職員非正規率などのデータも

また、同協議会が独自調査や大阪市の回答をもとに作成した社会保障に関するデータがこの話し合いの中で配布されましたが、その中には①港区役所の二〇一五年四月一日の非正規職員は五十人(二二・三割)②うち生活保護課は二一人(四・一割)③うち生活保護ケースワーカーは八人(一九・〇割)④港区の二〇一五年三月末の生活保護世帯数は三三三三(八・三割)⑤同じく利用者数は四三三八(五・三割)などがありました。

◆現状反映した厳しい追及と真摯な対応

「行政水準を少しでも上げてほしい」と社会保障全分野に亘って独自調査も踏まえて詳細かつ厳格に検証・追及する区民側。それに対して忙しい業務の中で一つ一つ真摯に対応する区役所側。その間々々々の中に、現在の庶民の苛酷な生活環境で、それを承知しながら国政府・市政の制約下で充分に対応し切れない地方公務員の苦悩が反映されていました。

暮らしを支える下水道

好評だった市岡処理場「一般公開」



「生活を支える下水道の役割がよく分かった」と好評だった市岡下水処理場「一般公開」

十月三日（写真は反応槽を見学する参加者）

「私たちの生活を支えてくれる下水道の仕組みがよく分かった」。十月三日（土）に行なわれた市岡下水処理場（市岡一・二五・五、辻井淳一）場長の「一般公開」には区民ら三百数十人が来場。朝十時から夕方四時まで、施設見学などを通じて、汚水や雨水が様々な処理を経て尻無川へ放流される仕組みなどを学びました。「市区民に親しまれる施設」と毎秋実施されている催しで二十回目。

◆きれいになつて尻無川へ

このうちメイン行事の「施設見学」では、下水道を通つて場内に流れ込んだ生活排水や産業排水が、①沈砂池（大きな砂やゴミを除く）②ポンプ棟（ポンプで汲み上げ次へ送る）③沈殿池（汚れを沈める）④反応槽（沈んだ汚れを微生物に食べさせる）⑤沈澄池（おなか一杯になった微生物を沈めて澄ませる）⑥消毒室（澄んだ水を塩素消毒する）一などを経て尻無川へ放流される仕組みを、職員が処理順に引率しながら説明してくれました。

◆職員の解説に感心

（この中で見学者は、案内職員の「ポンプ棟で

「沈殿池の仕組みを説明する職員」と、綺麗になつた沈澄池の水を眺める参加者



はポンプ二台が一日に京セラドーム七杯分の下水を汲み上げます」「停電時にもこのポンプが動くよ」「自家発電設備があります」「微生物を元気に働かせるために酸素を吹き込んで六時間ほどかきまぜてやります」「その設備を運転するため年間三千万円の電気代の大半を使います」「処理の中でできた汚泥は津守処理場や舞洲スラッジセンターへ送られて塊になり、煉瓦などに再利用されます」「ここへ流れ込んだ下水が尻無川へ放流されるまでには約十二時間かかります」「この解説に、しきりに感心していました。

◆浸水を防ぐ役割も

一方、そうした汚水処理「コース」の途中に訪れ

た「第一ポンプ棟」は、この処理場のもう一つの役割である雨水処理を担う施設。大雨の時に町が水びだしにならないよう、雨水を尻無川へ送り込む五台の巨大ポンプが設置されています。職員が「全て稼働すると二分間に二十五メートル七杯分を排出でき、一時間に六十センチくらいまでの雨量なら大丈夫です」などと説明し、スイッチを入れると轟音が棟内を震わせました。

◆ 心臓部の中央監視室も公開

また、一昨年初めて公開された「中央監視室」が今年も公開され、この処理場の中様々な施設の様子や雨の降り具合、それに港区と西区に計四力所ある抽水所（地中深くを通る下水をポンプでくみ上げて処理場までスムーズに流す中継ぎ施設）の状態などをテレビや計測器で監視したり操作したりする様子を見学できました。「ここが施設の心臓部です」「処理場全体では昼間は二十一名が働き、台風などの非常時には増員されますが、ここでは二人が二十四時間・三百八十五日体制で働いています」などの説明に、見学者は盛んにうなずいていました。

◆ 微生物の働きに驚き

← 雨水処理を担う第二ポンプ棟の見学①と、中央監視室での遠隔操作の説明を聴く参加者②



また、屋内に特設された「ミクロの世界」コーナーでは、施設見学の中で反響を呼んだ反応槽での汚水処理、つまり微生物が汚れをバクパク食べる様子が、顕微鏡の拡大モニターで百倍や二百倍の映像になって手に取るように分かり、子供たちは「食べてる食べてる」と大喜び。「微生物にはツリガネムシなど何万種類もあります」「形も大きさも動き方も違う微生物たちが力を合わせて働いてくれているのです」などの説明に「すごいね」の声が上がっていました。

◆ 他の「コーナー」も楽しむ

この他、会場には、①DVD上映（下水道の仕組みや歴史を学ぶ）②下水管内作業車の実演（管

内を監視したり洗浄したりする様子モニターで見学）③降雨体験（だんだん激しくなる雨の圧力をカップ着用で実感）④ゲーム（ヨーヨー釣り・スパーボールすくいなど）⑤消防署（ミニ消防服で写真撮影など）⑥パッカー車（ハイブリッドゴミ収集車に乗車）⑦リサイクル工作⑧フンフンふれあい（犬と写真撮影など）⑨マタニティ子供服の展示・提供（などのコーナーが設けられ、家族づれなどが楽しんでいました。

なお施設見学終了者やアンケート提出者には①下水処理の仕組みを印刷したクリアファイル②地球環境に優しいサバノナ堆肥③下水汚泥から再生された透水性煉瓦④花の苗などのプレゼントがありました。

◆ 「日常生活を支えられ感謝」と感謝状を寄贈者

参加者に感想を訊きました。

このうち「誘い合って来た」という谷田敏彦さん（七三）＝港曙＝と海東右夫さん（八三）＝三先＝と富田公子さん（七三）＝港曙＝は「普段は何気なく水を飲んだり汚物を排出したりしていますが、その裏でそんな日常生活を二十四時間・三百八十五日支え、浸水対策までしてくだ

さるのは本当にありがたい「日本は何かにつけて本当に行き届いている。下水工事なども、うつつしいなんて思ったらアカン、税金もしっかりと払わなアカンと思いました」「品所では油もんはきれいに拭いてから流そうと思いましたが」などと話していました。

◆「大まかに理解できた」と子供たち

また姉妹である一人の母親に連れられて来た金城琉夏さん(磯路小六年)と武田小雪さん(田中小五年)と武田大和君(同一年)は「難しいことや細かいことはよく分かりませんが、汚れた水が色んな処理を経て綺麗になっていく様子が大まかに理解できました」「微生物が汚れを食べてくれること」にびっくりしました「お正月も仕事されているのに感謝したいです」「水の使い方ももっと気を付けようと思いました」などと話していました。

◆「微生物に感動」と母娘

また「広報みなと」を見て初めて参加したという内海かおりさん(築港小)は「前から下水道に興味があり、頭ではある程度知っていました」が、実際に「目で見て子供にも説明できる」ように

「微生物が汚れを食べる働きの説明」と、水管内部での作業車の様子を見る参加者①



と思って参加しました。汚かった排水がだんだん綺麗になっていく仕組みはすごいと思いました。特に薬品ではなく微生物が働いてくれていることに感動しました。またこの広い処理場を中央監視室からたつた二人で制御されていることにも驚きました。マンホールの矢印が下水の流れを示しているなど、楽しいこともたくさん知れて、とても有意義でした。一緒に来た長女の愛珠さん(築港小一年)は「顕微鏡で微生物を見せてもらって、とても面白く、勉強になりました」「ヨーヨー釣りやワンちゃんとの触れ合いも楽しかったです」と話していました。

◆進化する処理設備

なお、同処理場は一九六一年、市内に十二カ所ある処理場のうち四番目に完成。処理区域は港区全域と西区の一部、合わせて八二ヘクタール。一日当たりの処理能力は十二万立方メートル。区域内には四つの抽水所(ポンプ場)があります。

処理方法は、最初は簡易な沈殿法でしたが、八一年から「活性汚泥法による高級処理」が可能になり、塩素消毒をして尻無川へ放流されるようになりました。また処理過程で生じる汚泥は、当初は同処理場で濃縮して「遠心脱水処理」されていましたが、八六年からは津守処理場(西成区)へポンプで送られて処理されるようになりました。さらに八六年から毎秒四・一五立方メートルの排水能力をもつ「雨水排水用ポンプ」が稼働し、浸水解消に大きな役割を果たしています。

〇二年三月には大阪市で初めての「雨水滞水池」が完成、それまでは雨天時に放流していた降雨初期の汚れた雨水を貯めておき、晴天時に高級処理をして尻無川へ放流できるようにもなりました。さらに今年度、下水処理の過程で発生する硫化水素による臭気を消すため、生物を利用した脱臭装置が新設されました。

昼も夜も大にぎわい

繁栄商店街でワイワイ市場&夜店



→安くて楽しい店でにぎわった「繁栄ワイワイ市場」と「繁栄韋駄天尊夜店まつり」の同日開催＝十月三日、繁栄商店街で（写真は夜）

商店街は昼も夜も大にぎわい。個性的な露店業者が集まる「繁栄ワイワイ市場」と、地域の守り神に感謝して夜店が並ぶ「繁栄韋駄天尊夜店まつり」が十月三日（土）、繁栄商店街（南市岡三丁目）で同日開催されました。

このうち「ワイワイ市場」は、各地で活動する露店が一堂に会することで業者同士の交流と商店街の活性化をめざす試みとして今年三月オープン。以来、毎月第一土曜の十～十八時に定例開催。この日も同じ時間帯に、野菜市、唐揚げ、窯焼きピッツァ、沖縄物産、手作り小物、マッサージ、保険案内、似顔絵、LED照明PR、バルーンアートなどの店が並びました。

一方の「夜店まつり」は同商店街振興組合（小嶋幸造理事長、主催で三十年以上に亘り毎夏催される伝統行事。今回は秋バーションとして十八時スタート。昼の露店が引き続き出店したのに加え、「たごめんべい」な懐かしさや目新しさを組み合わせた食べ物店（どれも一つ百円）や「カプセルポン」にせ金魚すくい「射的」など遊び心と工夫を凝らした遊び店（どれも一回百円）がずらり。その流れにも行列が並び、商

「ワイワイ市場で「LED照明」をアピールする前田機械株式会社」と、夜店まつりで幼児の人気を集めた「フヨフヨすくい」



店街の人たちが笑顔で対応。ジャズ演奏も賑わいに花を添えていました。また韋駄天尊の祭壇に来場者が手を合わせる姿からは、商店街に寄せる住民の想いが感じられました。

長男の優成くん（二）を連れて夜店に参加した八木正基さん（四一）・あき子さん（四〇）夫妻は「近くに住んでいるのでこうしたイベントの開催はすぐ分かります。夜店にはいつも来ています。地域の人たちが集まり、懐かしい遊びや食べ物を安く楽しめるとても良い催しだと思います。もっと商店街が長くてたくさんさんの店が並んだらさらに楽しいでしょうね」と話していました。

草の根国際交流二十年

市岡日本語教室が記念式典



→ 外国人に日本語を教えること通じて草の根の国際交流に貢献してきた市岡日本語教室の二十周年記念式典＝十月四日、港区民センター

日本で暮らす外国人に日本語を教えることを通じて草の根の国際交流に貢献してきた「市岡日本語教室」が設立から二十周年を迎え、その記念式典が十月四日(日)午後、港区民センターで行なわれました。同教室を運営する「NPO市岡国際教育協会」が主催。外国人学習者約四十人、日本人ボランティア約五十人、一般市民ら、合わせて百数十人が参加しました。

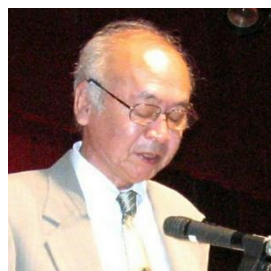
◆「これからも永く活動」と理事長

第一部ではスリランカ出身の女性学習者、ジャナ二さんと男性学習者、チェハンさんが「日本語と共に日本の文化や習慣を学ぶ、国際交流もできています」と日本語で感謝を述べて開会を宣言。古田徳夫^{ふるのりく}・同協会理事長が二十周年で日本有数のボランティア団体に成長した。今後も地域に根差し、関係団体と連携しながら永く活動していきたい」と抱負を述べました。

◆「誰もが生き生き暮らせる地域」と区長

来賓の田端尚伸^{たはたひさのぶ}・港区長は「市岡国際教育協会の目的と歴史を読み直し、二十年に亘る^{わた}実践に改めて感銘を受けた。定時制廃止という困難を乗り越え、民間ならではの手作りの活動を続

け、式典で会発展への抱負を述べる古田理事長(上)と、地域づくりへの決意を語る田端区長(下)



け、七夕まつりなど日本文化を楽しむ場も採り入れながら、国際化と多様化の時代にふさわしい地域づくりに貢献されてきたことに心から感謝し、また誇りに思う。区人口の三割、一千三百人は外国籍。クルーズ船で訪れる外国人観光客が増えるなど日常的に外国人と顔を合わせるのが当たり前になってきた中、この活動はますます重要になっている。誰もが理解し合い、生き生き暮らせる地域社会に向けて、皆さんと連携し、努力していきたい」と決意を述べました。

◆「国際交流にも力」と学習者

同じく来賓の藤田明^{ふじたあき}・市会議員は「ボランティアに支えられた民間の取り組み。これこそ大阪のめざす姿。これを二十年前から続けてこ

れたことに敬意を表したい」との市長メッセージを紹介。同教室の活動を長年支援してきた大保山商店会と日本文謡隆勢会には感謝状が贈呈。九年前から同教室で日本語を学んできた王建珍さんが「今後三十年、五十年と、日本語だけでなく国際交流にも力を尽くして参ります」と決意を述べ、式典を締め括りました。

◆「七転び八起き」インドネシア男性

第一部の「学習者日本語弁論大会」では、中国、ベトナム、香港、ジャマイカなどから来日した学習者十一人が、学習途上の日本語を駆使して、それぞれの思いや考えを発表しました。このうちインドネシア出身の男性ナナン・シディックさんは「自分の夢」と題して弁論。日本語を仕事に生かしていること、学習をやめようと思ったこともあったが家族やボランティアの顔、『七転び八起き』という日本の諺を思い出して続けてきたことなどを語り、「これからもうきりぬぎに頑張っていきたい」と結びました。

◆「紅葉や桜楽しむ」台湾女性

また台湾出身の女性 羅鈺婷さんは「日本の印象」と題して弁論。日本語を学び始めて二カ

←弁論大会で「自分の夢」を語ったナナンさん
①と、「日本の印象」を語った羅さん②



月になること、台湾人オナーのレストランで働いていること、仕事は忙しいが給料が良いので楽しいこと、日本の道はきれいだが台湾の道は「ミ」が多いこと、日本では電車の中で携帯電話は禁止で飲食はOKだが台湾では携帯はOKで飲食はできないことなどを語り、「来年八月に台湾へ帰るが、それまでに紅葉や桜など色々な景色を楽しみたい」と結びました。

このあと第二部では隆勢会による日本文謡や学習者による民俗音楽・民俗舞踊などのパフォーマンスが、第四部では親善交流会が催され、関係者の間で親睦を深めました。

◆「夜に学ぶ灯を消すな」発足

市岡日本語教室は市岡高校定時制廃止反対運

動を機に「夜に学ぶ灯を消すな」の合言葉のもと同校定時制同窓会「田龍会」が中心となり九六年に発足。会場は同校会議室や教室でした。同年、運営団体として市岡国際教育協会を設立。九八年、同協会がNPO法人として大阪府から認可。〇二年、会場を同校同窓会館へ移動。一〇年、港区「ミニコミュニティ協会(現大阪市「ミニコミュニティ協会港区支部協議会」との共催となり、会場を区民センターに移し、現在に至っています。

◆「一対一、会話を楽しむ姿勢で」

学習は毎週金曜夜七時～八時半、「先生役のボランティアが「生徒」役の学習者に一対一で実施。「教える」というより「共に学ぶ」姿勢や「会話を楽しむ」「雰囲気重視。要領があれば日本語能力試験にも対応、毎年多数の合格者を出しています。このほか七夕祭りなど季節の行事も催し、小中高校の総合学習への協力などを通じて地域社会との連携も図っています。

現在、学習者は約七十人。ボランティアは約八十人。応募などの問い合わせは担当の札葉さん(Eメール:fudaba@iris.eonet.ne.jp)まで。

みなとサロソ

暴走政権…でもどまらねえぞ！

池島・勝部 泰臣 八十二歳
かつへ やまのぶ

あの安保法案採決後、安倍総理は「分かり易く説明しー」とテレビ・新聞で約束したが、未だに果せぬまま。それどころかアメリカ空母に乗り込んで戦闘機から顔出し「新聞の写真のつれしそつなど。そのつちさ度は「飛んでみた」なんて言い出したりして…。この人、戦争好きなんで、やっぱさ。

この政権の暴走は今も止まらない。

沖縄・辺野古への米軍基地移設問題。何と県と市を通さずに、辺野古は二地区の区長と官邸で会談し、財政支援をするというのだ。実現すれば異例中の異例だけに、他県からも要請があるつ（歯止めが利かなくなる）とは田中見えているの(…)

もう一つ、例の「一億総活躍」。一億と聞いただけで怪しいな気持ちになるのは戦前生まれの

年輩者だ。軍の命令に従ってバカを見た経験。

戦後の復興に勤勉に働きつづけた昭和前期生まれの人々。「まだ何かせいと言っのか。もう休ませてくれよ」が本音だと思うが…。

もう一つ、世代が違っただからと諦めかけていたところ、十月二十七日付M新聞の女性記者の「フム」発信箱。五年前にくなられた数学者・森毅（しん）さんをインタビュした時のこと。「政府はだますもんよ。…だますもんや、と思っただまされへんように考えるのが大事。だまされへん用意をせなあかん…だまされん用意ってのは、ほう、振り込め詐欺に強い大阪のオバちゃんみたいなもんよ…」

八十二歳で天国へ行かれた森先生、さすがコニクです。

国のあり方突いた「あさやけ」

（市國元町・七十年代 元公務員）

十月「国」では国のあり方を鋭く突いた「あさやけ」に感心しました。特に国民・政府・アメリカをズズミ・ネコ・イタチにたとえた電話は、大変分かりやすく面白かったです。たしかに戦

争法も、沖縄問題も、大阪都構想も、全て仕掛け人のアメリカが高みの見物をする下で怒鳴り合っている構図。一国民として情けなくなります。戦前日本の在り方が良かったとはもちろん言いませんが、それでも明治維新から続く国家としての独立は保たれていたのではないでしょう（家内ともども戦前日本の実際はもちろん知らず、親の世代などから伝え聞いた限りでの推測で、誠に恐縮ですが…）。それがいわゆる戦後民主主義にとって代われ、それによって確かに天皇制や軍国主義の重古しさはなくなったものの、国家の独立や国民の品格という点で、この七十年間に失ったものは余りに大きかったように思います。国家としての独立が、はたまた国民の自由が、どちらが大切かは太変難しいところですが、やはりまずは国家の独立がなければ国民の自由も民主主義も本当には保障されないように思います。実際、戦前にはあつた愛国心や愛郷心、愛社心や師弟愛などが見るも無残に失われ、ただ私利や個性を競つ風潮ばかりが強まっています。「これは決して人間精神の解放や自由とは言えず、むしろ何でもありの自分

勝ち主義に縛られているだけのようなきがします。それだけに「あきやけ」の結びにあった「リーダーの良し悪しは別にして、戦後七十年、これくらい独立の気概ある政治家が日本にも出てこないか」という願いが、いつか叶うことを家内とも祈ってやみませんでした。

追伸 十月号トップ記事「事業趣旨踏まえた議論期待」・区画整理記念事業『フーキング』が進展」については九月号とほぼ同じ感想を持ちました。つまり、①活発な議論が行なわれて良かった②しかし交流やイベントや収益性など区画整理の歴史を継承するといった事業趣旨から外れた所へ議論が流れていた③進行役を民間企業に任せたいかがなものかーといったことです。今後のフーキングでの区役所職員やメンバーの奮起を引き続き期待しています。

腹立たしいマイナンバーの狙い

(磯路・陸地照子)

マイナンバー制度についての小西さんの提言(十月号五頁「叫んでいこう」)を興味深く読みました。この制度については、前から何

か不安で嫌な感じを持っていました。というのは、私も小西さんの言われるように、この制度は「国民のためではなく国民を搾り尽くすこと」を狙いがある」と思っていたからです。

また、一枚のカードに多くの情報があるというのは、それだけ危険も大だということです。まして国民がまだ十分に理解し納得していない段階で、国の都合だけで決まってしまうのは、本当に腹立たしい限ります。

国会議員の定数削減のよう、自分たちにとって都合の悪い問題にはばいど手を付けず、国民から吸い上げることはかりきりである政治家。本当に国民を愚弄しています。

国民の不安を代弁した小西提言

(三光・六十代 商店主)

「叫んでいこう」をいつも最初に読んでいます。十月号の「マイナンバー制度」リスクはないのか」という小西正敏さんの提言(五頁)は国民が今感じている疑問と不安を代弁してくれたように思いました。特に「公平・公正な社会の実現」「国民の利便性の向上」「行政の効率化」

といった国の宣伝とは裏腹に、本当の狙いは「国民総搾りにある」という指摘が鋭いと感じました。たしかに色々な手続きなどが便利になる一面もあるでしょうが、総体的に見れば、「マ油のように国民がますます搾り取られることや情報漏れによる被害の危険など、マイナスの方が圧倒的に大きいと思います。

港区役所に「マイナンバーの説明会は開かれるのか」との問いかけをされるなど、考えるだけでなく自ら行動もしながら、毎回色々なテーマで庶民の気持ちを代弁して下さる小西さんの提言に、これからも注目しています。

高齢者や子供への愛と平和感

(此花区・七十代 自営業)

ネット読者です。十月号では「長年の貢献お疲れ様 敬慕の日 各地で祝賀会だ(八頁)」と健全な遊びが一杯！ 秋空のトット『わびばあさん』の「超活況」(八頁)と「手曲ついで」(一〇頁)を黒田観察会で子供ら歓声」(十二頁)を楽しんで読ませてもらいました。高齢者への敬意、子供たちへの愛情を港区の方たちがしっかりと持って街へを

されているのが感じられ、温かな気持ちになりました。「敬老云」「参加者の笑顔の素晴しいこと」。また「わんぱくまつり」「星雲觀察云」に参加の子供たちの真剣で楽しそうなこと。写真からだけでも当日の雰囲気伝わってきます。

「ゆつやけ」にも書かれていましたが、人間一カ所に集まり合うことにはやはりそれなりの意義があると思います。またこうしたイベントを見ている限り、テロや紛争が絶えない世界の中で、日本はまだまだ平和だと改めて感じた次第です。戦争体験者のはじめ（中国大陸からの引き揚げ者）として、こういつ平和な記事を毎日楽しみにしております。

温かな「高橋大チャリナイ」続けて

（波除・六十代 無職）

十月三日はうちの近所の藤がはらの「高橋大チャリナイ」の記事が、温かくて良かったです。昨年の事故での中止を補って余りある盛り上がりがあり、豊富な写真や詳しい記事からびびり伝わってきました。特にゲスト出演者の多彩さ、幅広いが、藤がはらの志の高さ、人柄

の良さを表わしているように思います。その一人、桂福丸さんの小話（韓国国民謡「あーコーリヤン」、ロシアの民謡「あーソーレン」など）には思わず笑ってしまいました。一千年以上続いて藤さんもかなりのお歳になられたと思いますが、殺伐とした事件続きの世の中、お元気で、一年でも長く続けて頂きたい催しです。

西村捨三さんの精神力に感心

（市岡・四十代 会社員）

「みつちゃん」の港区なるほど歴史ガイド 築港大棧橋ものがたり（十月三十一頁）を読んだ。大阪の築港事業に力を尽くした西村捨三さんの仕事ぶりや当時の大阪の人たちの雰囲気（波除）が分かりやすく語られ、一気に読み終えました。莫大な費用や事故の発生などいくつもの難題を乗り越えて大仕事をやり遂げた精神力、指導力に感心したのはもちろんですが、明治天皇と云うのを「病体では畏れ多い」と辞退したところ、故郷の殿様からもらった石をいつまでも愛でていたことなど、ちよつとしたエピソードから、昔の人の謙虚さや純粋さが伝わってきて、「何で

も自分の手柄にするものか」とは違うなあ」と感動しました。面白さという点では前の「ロシアの黒船騒動」（六〇八月）に連載に軍配が上りますが、また違つてそこで勉強させてもらいました。性別不明の「みつちゃん」のタイムスワープに、これからも期待しています。

教育の力に驚かされた「戦争体験」

（八幡屋・四十代 一児の母）

十月三日の「平和のため戦争体験語り継ぐ」（三十八頁）は、よく利用するオリオン書房の「主人の戦争体験」ということで、興味深く読ませて頂きました。こんな体験をされていたことにまず驚きましたが、お歳からすれば当然といえば当然で、普段はそんなことをおくびにも出さず、穏やかに過ごされているけれども、やはりこの年齢の方たちは誰もが何らかの形で深刻な戦争体験をされてきたということを見通してはいけないと思いました。体験談の中では、当時の教育で完全な軍国少年に育ったこと、国のために働けるという目標があったので厳しい訓練も苦にならなかったことなどが印象に残

り、良きにつけ悪きにつけ、教育の持つ力の大きさに改めて驚かされました。

『責め命めて、忘れてはいけない地域の貴重な歴史を、こうして読みやすい形で残して下さる港新聞のご努力に感謝しています。』

「こども戦争の悲劇」幸運橋の空

(磯路・六十代 パート女性)

毎月冊子を届けて頂き、ありがとうございます。うちのこどもと年齢的に重なることもあって「みなと人生劇場 幸運橋の空」(十月号は三十八頁)が毎号楽しみです。苦勞続きたった久美子さんによつやく結婚という春を訪れたと思つたら、とだんに夫が召集。「つわ〜」というとも言えない思いに突き上げられて、目には見える涙が溢れたとありますが、本当にどんな気持ちだったでしょう。うちの母も勤勞動員の経験話をしてくれたことがありますが、こどもにはやはり戦争の悲劇があったのだと悲しく、また腹立たしくなりました。これからこの困難をどう乗り越えていけるか、心して読ませようと思つてます。

「辻悦子さん(市岡元町)からの絵手紙」



難波利三作品の味わいを感じた

(住み江区・五十代 労働者)

ネットで読んでいます。文芸関係に興味があり、十月号では「芸人世界を温かく あんがいておまる一座 難波作品を朗読で」(二十四頁)を面白く読みました。朗読された難波利三作品のあらすじが紹介されていましたが、一作とも芸人を主人公にした味わいあるストーリーで、原作を読んでみたくなりました。また朗読が「西田敏行・竹下景子」を彷彿させる水準とあったのにも興味をそそられ、機会あればぜひ聴いてみたいと思いました。前も書きましたが、港区

の小さな劇団がメッセージを込めた演劇を地道に続けられていることに感銘を受けています。

英語での授業は「国の道」

(港の高杉晋作)

全ての授業を英語で行なう大学が増えているぞつだ。安倍内閣の成長戦略で「グローバル人材の育成」が掲げられているからだが、これ为本当に日本人の知力向上や国際化が果たせるのか、大いに疑問である。

最近の新聞によると、「専門的な話は何となくしか分からない」「私立大一年女子など学生の間でも不安の声が上がり、専門家の間でも例えば元岐阜大教授の寺島隆吉さん(英語教育学は「英語」による授業が必要だったのは、しかし教科書がなかった明治の話。世界最高レベルの教育を母語で受けられる現代日本で、英語で専門教育を行なうのは全く無意味。大学とは本質的な知的好奇心を養い、批判力や創造力を育て、自学・自立できる力を身に付けさせる場のはず。英語力「グローバル人材ではない」、英語力が必要というのは産業界の要請で、学生

のためではない。世界がグローバル化するから
こそ英語への一極化はむしろ危険。日本語なり
五冊十冊読める時間を英語の本一冊を読むのに
かけていたら、それこそ世界の先端知から取り
残される」と指摘されている。全く同感・同意
である。

英語を学ぶことが無意味だとは思わない。
海外出張や留学など目的に応じて学ぶことはむ
しろ必要である。かく言う私自身、日本文学の
名文と共に英文学の名文を暗誦するなどして言
葉に対する感覚を磨くことと努力している。

しかアメリカ主導の「グローバル化」を錦
の御旗に「猫も杓子も英語を学ぶ」「英語しか
使つな」「英語が話せないのは恥かしい」とい
う上からの風潮は、かつて日本がアジア諸国
に強要した「大東亜共栄圏」を今度は「アメリ
カ共栄圏」として強いられようかのように思えて
ならない。まさに亡国の道である。

安倍首相の英語演説に影響され、特に必要も
ないのに英会話に私費を投じようとしている方
がおられるなり、一度立ち止まって自分や国の
あり方をじっくり考えてみてほしいだろうか。

啓蒙的・実益的な情報

あれこれガイド

● 大阪みなと中央病院 平成三十二年度 弁天
町駅前 移転問題 意見交換会 十一月 十九日
日(十三)十五時に天保山第五「J」ポ集会所
築港二・二三で開催。大阪みなと中央病院、港
区医師会との面談の内容を報告。今後の取り組
みについて一緒に考える。入場無料。申込不要。
先着五十名。資料集(三百円)は希望者に頒布。
主催は築港エリアに総合病院の存続を求める
会。問い合わせは同会の山田博之さん ☎六五
七六六三六〇へ。



→平成三十一年度に弁天町駅前へ移転・開業す
る大阪みなと中央病院(築港二丁目)

「昨年の「池島ふれあいまつり」から(上はス
テージでの太鼓演奏、下はミニス)



● 池島ふれあいまつり 地域の誰もが交流し
楽しめる健全な文化の場として町ぐるみで盛り
上げる恒例イベント。三十五回目。十一月 二十
三日(月祝)十・十五時半、池島公園(雨天時は池
島小学校講堂で。入場無料。①ふれあいスア
ーシ(幼児や小学生の歌や踊り・和太鼓演奏・チャ
ダンス・大道芸など)②ふれあい広場(ミニ地下
鉄・トランポリンなど)③いこいの広場(わらぞ
うり作り・ふれあい喫茶など)④ふれあいキッズ
(人形劇など)⑤バザー・模擬店などで楽しい企
画が毎年好評。池島地域活動協議会が主催。 ☎
六五七二・〇二〇〇海の子学園池島寮。

● ワークみなと「東北食品市」 東日本大震災

で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・青豆豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心両面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から（売り切れ次第終了）▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所（夕田二六三、☎六五七一・七五二一）。

●ムチ打ち 省・腰 無料相談会 交通事故でムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。十一月二十日（日）十時十八時に行政書士のむら事務所（築港二七・一六〇八）で。一人約一時間。事前予約制（電話かメールで。「どうしたら止まるか」補償が得られるかをアドバイスします）「事故後、早めの相談が良い結果につながります」（同事務所・野村光恵さん）。Eメール info@jikkou110-nomura.com、TEL 六五七六・六〇七六、FAX 六五七六・六〇七九。

●団結もちつき大会 争議組合支援など労働運動の高揚の場として労働者と地域住民が餅をつ

← 昨年の団結もちつき（上）と過去のワイワイ広場



き食べながら交流する四十数年來の行事。中小

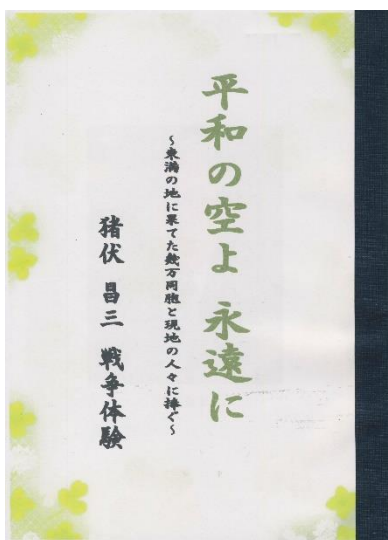
労組・労働者の集まりである全国金属機械労働組合連合会（同もちつき実行委が主催、NPO などが共催。十二月十一日（土）十一時から田中機械（南市国二・六二六）で。十三時から集会。雨天決行。参加無料。つき手丸め手などボランティア募集。☎六五八二・四八五八港会同。

●繁栄ワイワイ市場 商店街に個性的な露店がズバリ。各地で活動する様々な分野の業者が一堂に会するよう業者同士の交流と商店街・地域の活性化をめざす。毎月第一土曜の十時十六時、繁栄商店街（南市国二丁目）で。手作り小物、バルーンアート、保険案内、似顔絵、唐揚げ、窯焼ピッツァ、沖縄物産、占い、ネイルア

ート等々。月替わり特典あり（十一月はプレゼント交換）。☎六五八三・〇三三八繁栄商店街。

●戦争体験記『平和の空よ 永遠に』 東満州・延吉で終戦を迎えた十六歳の少年が日本に帰り着くまでの苦難の体験を綴った感動の書。戦後七十年、戦争の悲惨と平和の尊さを語り継が

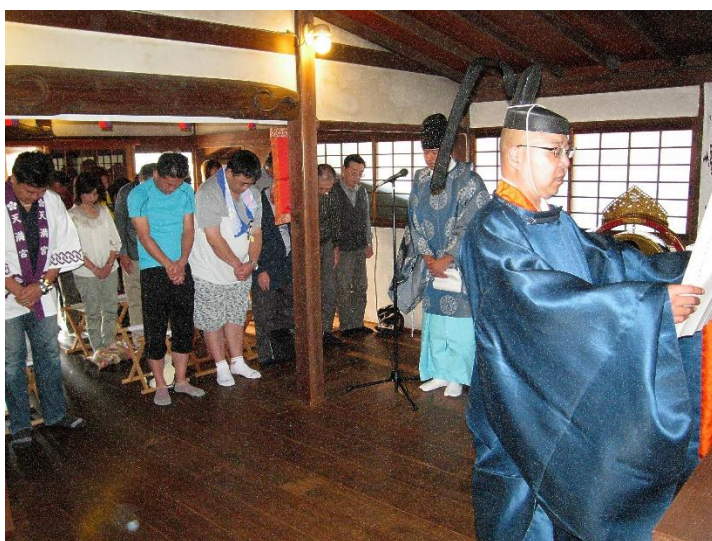
んと、本紙二三年五月〜一四年 月連載「平和のため戦争体験語り継ぐ」に加筆し、入魂の冊子化。希望者には二百円（送料・税込）で頒布。詳細は筆者・猪伏昌三さん（〒531・0074 北区本庄東一四・一・二二三）☎FAX 七五〇八・一一二七、Eメール mk5@w2.dion.ne.jp へ。著者はもつ田中住民。



→ 戦争体験記『平和の空よ 永遠に』

地域の弥栄を願ひ

天満宮が百八十年奉祝祭



→江戸期から続く神の加護に感謝し地域の弥栄を願って行われた天満宮「御鎮座百八拾年奉祝祭」での祝詞奏上＝十月二十四日、本殿で

江戸期から百八十年続く氏神の加護に感謝し、地域の一層の繁栄を願って天満宮（三先一丁目、村岡康生宮司）が十月二十四・二十五日「御鎮座百八拾年奉祝祭」を挙行、地域の人が多彩な行事で節目の年を祝いました。

◆ 氏神の加護に感謝

このうち中心行事の奉祝祭は両日午後の本殿で催行。奉賛会会員ら約五十人が参列する中、氏神の加護に感謝し地域の弥栄を願う祝詞の奏上や、参列者による玉串奉納などが、祭式に則り厳かに執り行なわれました。

終了後、参列者は大広間に移動。山本高雄美行委員長が「二年前から準備してきたが、天気にも恵まれ、最高の祭りになった。皆さんの力で地域をさらに盛り上げていきたいと思います」と、島尾健次・奉賛会会長が「奉祝祭を機に『門前市を成す』の賑わいが神社を中心に一層広がることを願う」、村岡宮司が「五代に亘る神の加護のもとに地域が発展してきた。この度は皆様の熱意が神に通じ、素晴らしい奉祝祭となった。一百周年祭に向けて地域がますます栄えていくことを願う」とそれぞれ挨拶しました。

→三先・池島地域を進む稚児行列①と、奉祝祭の後で開かれた奉賛会・実行委員会の集まり②



◆ 稚児行列や様々な催しも

また恒例の稚児行列は二十四日午前、池島の御旅所から三先小学校前などを経て天満宮に至るコースを約一時間半で通過。沿道の人々が「可愛いね」などと声援を送ったり拍手したりする中を、男児は金色の烏帽子に緑色の上衣と紫色の袴という神官装束、女児は金色の天冠に桃色の上衣と紫色の袴という巫女装束で、母親に手を引かれたりしながら練り歩きました。

このほか関連行事としてフリーマーケットや餅つき、餅振る舞い、昔遊びなどが催され、訪れる親子連れなどを地域の人たちが接待、両日に亘って境内は活況を呈しました。

◆ 地域との結びつきを大切に

参加者のうち奉賛会会員として世話役をしていた宮平知子さん＝三先在住＝は初日の奉祝祭に参列したあと次のように語っていました。

「子供を稚児行列に参加させた十年前の奉祝祭は夏だったので、とても暑かったのを覚えています。今回は秋晴れの下でも気持ちよく参加できました。また今回は参加するだけでなく、一杯でしたが、今回はお手伝いする立場になって、大変ありがたく思うと同時に、地域の反応など色々なことが見え、神様や天満宮が地域の人たちにもっともっと浸透してほしいと思いました。生まれ故郷の高松市では神社に近寄り難い印象を持っていましたが、こちらに嫁いで初めて天満宮のお祭りに参加した時、地域と神社が密接に結びついていることがとても新鮮に映りました。これからもこうした行事を通じて地域と神様の結びつきがより強くなを願っています」。

◆ 楽しみながら氏神に親しむ

また、稚児行列に参加した山野友和子ちゃん（五歳）＝文化幼稚園年長＝を見守っていた母親

「一九二二年に港南公園北東隅付近に建立された旧・天満宮①と、盛土工事中の六五年に現在地へ移築中の同宮②＝同宮ホームページより



は「姪（めい）（東〇心彩ちゃん＝小学三年生）も参加しています。一人とも一生に一度のことで、格好良くな身できて、とても喜んでいきます。普段は天満宮で（鈴尾を）ガラガラ鳴らせるのをいつも楽しみにしています。こうした行事に参加することで子供たちが楽しみながら神社のことを知ったり氏神様に親しんだりできるようになるのはいずれも良いことだと思います」と話していました。

◆ 天保に創建 戦災乗り越え

天満宮によろし、同宮の起源は天保初（一八三〇）年、葦屋勇助という人がこの付近の開発

を試みたことでした。が、度重なる水害により志半ばで中断、後を託された池田屋大吉という人は天保八（一八三五年）、大神を祀って開発を成し遂げ、池田新田と呼称。この成功により、その神域は現在の港南公園北東隅付近とされ、これが現在の三先・池島地域の産土神つまり氏神となり、現天満宮の創建となりました。

やがて大正元（一九一二年）には当時の地主・田中市蔵という人が私財を投じてこの地に社殿を建立。第一次大戦末期の昭和二十（一九四五年）には一帯が空襲で焼け野原になる中で奇跡的に焼失を免れました。その後、度重なる風水害で改修工事を繰り返し、抜本的改修が必要となる中、港区では戦災復興と水災回避のため盛土工事を開始。その過程で隣接の港南中学校の拡張をきっかけに昭和四十（一九六五年）、現在地への遷宮（移築・改修）が行なわれ、現在に至っています。

また、この間の昭和三十（一九五五年）には創建百十年奉祝祭、五十年後の平成十七（二〇〇五年）には百七十年奉祝祭が行なわれており、今回が三回目の奉祝祭となりました。

労働者と地域が一つに

港合同「交流秋まつり」賑わう



→労働者と地域の一体感が印象的だった港合同「交流秋まつり」(写真はカラオケ大会と賑わう客席) 十月四日、南市岡の田中機械構内で

「秋の一日を労働者と地域住民が一緒に楽しむ」と十月四日(日)、南市岡三丁目の田中機械構内で「交流秋まつり」が開催されました。

三十七回目。港区を中心とする中小企業労働組合の集まりである全国金属機械労働組合「港合同」と同もちつき実行委員会が主催、「平和と福祉」を掲げて活動する特定非営利活動法人「NPOみなと」が共催。爽やかな秋空の下、数白人の労働者と地域の人々が集まり、舞台での演芸や屋台での飲食、バザーなどを楽しみました。

◆「生活と平和すること」中村委員長

開会式では港合同の中村吉政委員長が「五月の住民投票では都構想に反対して否決に追い込んだ。戦争法は残念ながら成立したが、悲劇を繰り返させないために引き続き闘っていききたい。十一月にはダブル選挙があるが、この間さんざん大阪をつぶしてきた上に、住民投票では三十数億もの無駄金を使い、また同じことをやるうとして橋下維新に今度こそ終止符を。生活と平和を守るため、これからも闘い続けよう」と呼びかけ。朝鮮総連西大阪支部の沈委員長は「在日朝鮮人の民族教育を守るために活動して

「開会あいさつで『橋下維新に終止符を』と呼びかける港合同・中村吉政委員長



いる。十一月には朝鮮学校でも秋祭りがあるのでぜひ参加して民族教育の実際を見てほしい。問題は山積しているが、皆さんと力を合わせて乗り越えていきたい」と決意を述べました。

◆カラオケやフォークなど次々

このあと舞台では、NPOみなと会員や労働組合員らによるカラオケ、抵抗歌シンガー趙博さんの歌と演奏、勤労者歌手・金野広美さんらのフォークローレ、労働組合員による三線・アコーディオン演奏やジェスチャーなどが次々と登場。このうち勤労者バンド「ピーコバンド」は懐かしいフォークソングと共に大阪都構想反対運動の中で作ったという『大阪の女』のコー

モリスな替え歌で客席を沸かせ、カラオケでは『浪曲太鼓』の藤田尚さん(NPOみなと)が情感こもる熱唱で会場を盛り上げました。

◆ 争議支援バザーや将棋コーナーも

屋台では、焼きそば、おでん、焼き鳥、芋餅、地ビールなどが低料金で売られ、争議組合支援のバザーは完売の盛況。当て物などが並び子供コーナーや、勝敗を気にせず対局が楽しめる将棋コーナーも賑わっていました。

終盤は全員参加のビンゴゲームで盛り上がり、その後、午後二時ごろ、万国の労働者の団結歌「インターナショナル」を全員で合唱。高場のうち



→フォークソングで盛り上げた勤労者バンド「ピーコバンド」(上)と、爽やか司会ふりが好評だった(右から)長沢民衣さん・沢田尚さん(下)

に幕を閉じました。

◆ 「みな家族のよう」とNPOみなと会員

参加者のうち、舞台の出し物に拍手を送っていたNPOみなと会員の青木中さん(七二)＝南市岡＝は「毎回参加しています。NPOみなとは風呂を利用したり、二カ月に一回ミーティングをしたり、年に一度はメーデーも一緒に参加したりして、普段から交流を深めています。徳島県阿南市の海べりの町の出身で、三カ月に一度、実家へ帰るのを楽しみにしていますが、NPOみなと会員もみな家族のようです」と話し、このあとカラオケに出演、爽やかな『長崎の女』を披露し、喝采を浴びていました。

◆ 「地域との交流がよい」と組合員

またカメヲを手に会場を回っていたのは港台同会＝金属支部(福崎)の松本豊さん(四〇)。「組み立て現場で働き、組合では教習部に所属しています。職場の環境や条件が良くなってきたことで組合の力を実感しています。このまわりは四回目ですが、労働者だけでなく地域の人たちとも交流できるのがいいです。安本法や原登や都構想など気になることはたくさんありま

「大賑わいだった飲食屋台(上)と、静かな中にも熱気が感じられた将棋コーナー(下)」



すが、組合で勉強しながら考えていきたいと思っています」と話していました。

◆ 「子供も楽しめる」と三世代女性

また夫と共に五歳女兒と一歳女兒を連れて子供コーナーなどに参加していたのは高野知恵さん(三五)＝柏原市。子供も楽しめるよう工夫されているのが温かいですね。社会問題では、安本法はもちろん、小さい子を抱えているので、公立保育所が民営化されたりなくなったりしていくのが心配です」と話していました。

全体を通じて労働者・組合員とその家族、地域の人々が安心し切った表情で一大家族のよう

東北頑張れ！と一丸

区老連「さんま祭り」超活況



→「東北頑張れ！」と三陸沖の秋刀魚を次々と焼き上げる港区老人クラブ連合会会員。十月十一日、八幡屋公園多目的広場で

「東北産の秋刀魚^{さんま}を食べて大震災の被災地を支援しよう！」と十月十一日（日）、港区民まつり会場の八幡屋公園多目的広場の一角で「さんま祭り」が開かれました。港区老人クラブ連合会（区老連）原田壽^{しゅ}会長、二十一クラブ・二五八〇会員が主催、大阪市ミニミニティ協会港区支部協議会、港区役所が協力、区内の多数の企業・団体・個人が協賛。四回目。生憎^{あつらい}の曇り空でしたが、大勢の来場者が焼き立ての秋刀魚に舌鼓^{しんこ}を打ちながら東北の復興に熱い想いを寄せていました。

◆炭火で焼き上げ、ビールで

もつもと立ち込める煙、香ばしい匂い。午前十時、区民まつり開会と同時に、区老連テント横へし字型に設置された何台もの焼き台を前に、大船渡市の紺のＴシャツに帽子や鉢巻^{はちまき}にスタイルの男性会員が並び、三陸沖産の旬の秋刀魚^{すみひ}を炭火で次々と焼き上げていきます。それを、やはりＴシャツ姿の女性会員らが受け取っては前売券などと引き換えに来場者へ提供します。「おにぎりとお茶付きで五百円」という手頃な価格設定も効いて、正午をピークに、区民ま

「テント内で焼き立て秋刀魚を味わう来場者」と、秋刀魚運びや水掛けに活躍した中学生②



つりが終わる午後三時頃まで会員や一般区民千数百人が来場。テント内でビールの当てにするなどそれぞれの味わい方を楽しんでいました。

◆「高い目標もった活動」と男性会員

こうした活況の中、焼き係を務めていた大森慶孝^{よしたか}さん（八〇）は「初回から参加しています。昨日から準備し、今日は開会前の九時から立ち放し、焼きつ放しで疲れました。ただ売ってお金をもらうというのではなく、震災復興という高い目標を持った活動。しかも区民に喜んでもらえるのでとてもやりがいを感じます。六年前から第一田中長寿会の会長を務めておりすが、普段はカラオケで歌つのが大好きで、一年

前の大阪市老人クラブ連合会の大会には港区老連を代表して出場し、『対馬海峡』を歌って敢闘賞を受賞しました」と話っていました。

◆「やりがいを感じた」と中学生

またこの催しには一昨年、昨年に続いて中学生が参加。今年は区内五中学の十数人が生秋刀魚を焼き場へ運ぶなどの手伝いをしました。このうち永砂陽平君と山本新汰君(共に築港中一年)は「剣道部顧問の中村先生に『秋刀魚が食べられる』『図書カードをプレゼントしよう』などと勧められて二年生二人と二年生四人が参加しました」「秋刀魚を運ぶのはしんどいけど、食べてもらうのを見ると嬉しくなります」「僕たちの活動が東北復興に役立つと思うと、やって良かったと思います」と話していました。

◆「すばらしいイベント」と七十年代女性

またテント内で他の人たちが秋刀魚を食べるのを羨ましく眺めながら友人とお茶を飲んでいた藤本京子さん(七十年代)「築港で喫茶店を経営中はチケットが手に入らなかったのが残念です。でも震災復興の役に立つ、とても素晴らしいイベントですね」と話していました。

◆企業・団体も協力、支援は佳境に

なお、このさんま祭りには二〇二二年、「被災地復興のためにできることをやろう」と区老連役員会で立案。大船渡市に相談したところ感謝と賛同を得られ、同市役所から「大船渡のさんま」と印刷したTシャツを購入、三陸沖で獲れた秋刀魚八百五十尾を仕入れ、収益を寄付。翌二三年は運営に改善を加えて前年の倍の千三百尾、一四年は区民まつりとの「ラボ効果もあつて千五百尾。さらに今回は最多の千八百尾を完売。協賛の企業・団体個人も年々増え、復興支援はいよいよ佳境に入ってきました。

子や孫に自分の人生をのこそう!

お話をききとり、冊子にしてお渡します。

島根県から上阪し、金属系企業で働きながら労働運動にも力を注ぎました。全国的な運動退潮の中、10数年前に第一線を退きましたが、この間の経験と教訓がいつの日か運動の再興に役立てばとの思いから港新聞に相談し、冊子にしてもらいました。(70代男性)

★文書全般の代筆も承ります★

400字(原稿用紙1枚)で千円が標準料金です。

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636

ミ地域ニュース

みなとレポート

●旧日本軍の砲弾を八幡屋の運河から回収海上自衛隊阪神基地隊は十月十五日、八幡屋四丁目付近の運河から旧日本軍の砲弾五個を引き揚げた。前日に民間の潜水士が岸壁から一メートル離れた深さ三メートルの海底で発見したもの。長さ六十七センチ、四十五センチと三十五センチが各一個。いずれも信管がなく爆発の危険はなかった。

●ハラル調理師の育成へ府日本調理技能士会が認証制度 増大する外国人観光客のうち宗教上の決まりで日本料理を楽しめないムスリムのために大阪府日本調理技能士会(室田大祐会長)「割烹(カチウ)むろ」店主はイスラム教に則(したが)ったハラル食を理解した調理師の育成に乗り出している。和食はユネスコ「無形文化遺産」に登録されたがハラル料理の看板を上げる店がほとんどない中、国内では唯一の料理人対象の認証制度を発足。講習会を八、十一月に、十月にはインテックス大阪でハラル和食の調理実演を行つたなど精力的にPRを進めている。

市岡小に初の栄冠

区Pソフト 十五チーム熱戦



→十五チームが熱戦を展開した港区PTA親善ソフトボール大会(写真は田中小との決勝戦四回表に適時二塁打を放つ市岡小・西田選手)

「ソフトボールを通じて各校PTA間の親睦を深めよう」と港区PTA親善ソフトボール大会が九、十月に八幡屋公園多目的広場で開催され、十五チーム(築港中・港中・港南中・市岡中・築港小・港晴小・八幡屋小・池島小・三先小・市岡小・南市岡小・波除小・弁大小・田中小・磯路小)が熱戦を繰り広げました(市岡東中は棄権)。港区PTA協議会の主催で三十四回目。

九月十三日(日)の予選トーナメントを勝ち抜いた四チームが十月十八日(日)の決勝トーナメントに臨み、準決勝では田中小が磯路小を十六対〇、市岡小が築港中を十一対四と、共に大差で破って決勝進出。決勝では市岡小が十一対五で田中小に快勝しました。市岡小は初の決勝進出で初優勝。昨年優勝の田中小は連覇ならず。築港中と磯路小が三位入賞。大正区ソフトボール連盟が審判団として協力しました。

◆ 攻守のバランスで市岡小が優勝

このうち決勝戦は十八日の正午前プレーボール。市岡小は初回に五番中村の中越え二塁打で一点を先制、一回にも一番松井の右中間適時三塁打などで三点を加えると、四回には八番西田

←決勝戦の好投で優勝に貢献した市岡小のエース横田①と、最終回に二点二塁打を放って昨年優勝の意地を見せた田中小・松岡監督②



の右中間適時二塁打や九番横田の右中間一点二塁打など打者一巡の猛攻で一挙八点をあげ、試合を決めました。守ってはエース横田が低めにコントロールされた伸びのある速球で田中の強力打線を三回まで四安打・一点に抑えて試合を作ると、監督兼任のリリーフ金城は最終回、制球に苦しみながらも最後は低め一杯の速球で見逃し三振を奪って試合を締めました。長身捕手大西は大きな構えと適切な声かけで好リード、一回に一点を失った直後の一塁走者刺殺は試合の流れを大きく引き寄せました。内外野の守備も穴がなく、特に一回裏の二塁遊撃→一塁の併殺や、交代直後の投手を二者凡退で切り抜け

させた四回裏の強烈な「ロ・ライナー」の処理は、練習の蓄積を感じさせました。全体として、緊密な意思疎通の上に攻守にバランスのとれた質の高いチーム力が感じられました。

◆ 職人的な力ラーで田中小が準優勝

一方の田中小は昨年優勝の実力を随所に見せて健闘。一回には三番藤田が左越えにソロ本塁打、二回には六番原が右中間へ適時二塁打、最終回には四番松岡が右中間へ二点一塁打を放つなど、球威に逆らわずおっつける巧打で粘り強く追い上げましたが、四回の大量失点が致命傷となりました。守っては監督兼任の捕手・松岡が陽気で絶え間のない声掛けで「投手や守備陣を盛り立て、リリーフ藤田は四回こそ守備の乱れもあって大量失点したものの、思い切りの良い腕の振りから低めへ突き刺すように投げ込む投球に安定感がありました。全体として、個々の選手の高度な技の融合がもたらす、職人的なチームカラーが感じられました。

◆ 山本会長が健闘たたえ

閉会式では山本慎一・港区PTA協議会会長（市岡中学校PTA会長）、山本高雄・港区教育親

←初優勝に沸く市岡小（前列左から二人目は近藤校長、後列右から二人目は祝福する区P協山本会長⑤と、準優勝にも爽やかな田中小（後列右端は祝福する区P協・小松書記）



和会会長、小松茂・港区PTA協議会書記（三先小学校PTA会長）が挨拶や講評に立ち、参加全選手の健闘と大会の安全運営に敬意を表すると共に、優勝した市岡小チームの大阪市PTA協議会・西ブロック大会（十一月一日）での活躍に期待を表明しました。

◆ 「チームワークで優勝と金城監督

閉会式の後、両チームに感想を訊きました。市岡小の金城卓哉監督は「ずっと初戦敗退を続

けたチームが初めて上位に進出し、慣れない緊張の中でプレーし、しかも優勝を果たせ、こんな嬉しいことはありません。普段から一緒に飲んだり子供にソフトを教え合ったりする中で育まれたチームワークが一番の要因。校長先生らの声援も大きな力になりました。大会に向けて月一回、市岡小で「時間のナイター練習を重ね、攻撃型のチームを作り上げてきましたが、今日は守備でも頑張ってくれました。どんな状況になっても自分の役割をきっちり果たそうと皆で意識していますが、それをさらに磨いていくことが二連覇にもつながるのではないかと思います」と話していました。

◆ 「悔しさを来年に」と松岡監督

一方、田中小の松岡監督は「合同練習はほとんどできず、ぶっつけ本番、しかもぎりぎりの人数で最後まで残れたのは、一人一人が普段からクラブチームなどで力をつけていること、それにいざ試合に臨んだ時のみんなのムードづくりのたまわいでしょう。一連覇をめざしていたので正直悔しいですが、その気持ちを来年につけたいと思っています」と話していました。

バレーに捧げた生涯

萩野久美子さん偲び三百人



→地域バレーに生涯を捧げた萩野久美子さんを偲んで遺影に語りかける港区バレーボール連盟役員ら
十月十六日、港区民センター

地域バレーボールを通じた生涯スポーツの振興に生涯を捧げ、五月二十四日に七十一歳で亡くなった萩野久美子さん(前港区バレーボール連盟会長、前港区体育厚生協会会長、前みなとすばーつくらぶ会長)を偲んで十月十六日夜、港区民センターで「萩野久美子さんを偲ぶお別れの会」が催され、約三百人が参加しました。ゆかりの個人・団体から成る「發起人の会」が主催、港区バレーボール連盟が世話役。

●「その精神は生き続ける」と田端区長

ホール正面中央の献花台から、折り鶴と花に囲まれた故人の生前写真が会場を見渡すように微笑みかける中、お別れの会は数下俊文・港区バレーボール連盟会長の司会で進行了ました。

黙祷の後、来賓を代表して田端尚伸・港区長が「萩野さんはバレーボールをこよなく愛し、バレーを通じた生涯スポーツの振興に貢献された。この集まりの多さにも人柄を感じる。はにかむような笑顔が心に残っている。まだまだの活躍を期待していたのに痛恨の極みだが、その功績と精神は区民の心に生き続け、次代へ引き継がれると確信する。追悼の場を設けた港区

「港区バレーボール連盟二十周年の頃の萩野久美子さん」二〇一一年九月三十日撮影



バレーボール連盟や有志、遺族の方々に感謝したい」と故人への想いを述べました。

来賓紹介の後、「萩野さんが姉と慕った故・西林充子さん(元港区バレーボール連盟会長)の時代から長年に亘って父母と共に親交があった」といつ井上英孝・衆院議員の首頭で献杯。懇談に入りました。

●「人生謳歌できた」と夫・武彦さん

懇談会の中では故人と交わりのあった様々な個人・団体からのメッセージが披露されましたが、夫である萩野武彦さんからは「御礼」と題する関係者への感謝の言葉が届け、港区バレー

ポール連盟・田中喜美子副会長によつて代読されました。その要旨は次の通り。

「久美子とは五十年間連れ添い、良い時も悪い時も共に乗り越え、一入三脚で歩んできました。娘が幼い時、妻は腎臓病で余命一年と宣告されましたが、『どつせ死ぬなら好きなことをして』と中学時代からやつていたバレーボールを再開、持ち前のガッツと明るさで病気を克服しました。以来、バレーと共に生きようと決意を新たに、『鉄人』と呼ばれるほど元気に七十一歳まで続けました。常々『生涯スポーツ』を唱えていましたが、これが自分の身に叶ったのも皆様の支えのお陰です。最期に妻は『ありがとう』と言ひ残してこの世を去りましたが、悔い



→司会を務めた藪下俊文・港区バレーボール連盟会長①と来賓挨拶する田端尚伸・港区会長②

なく人生を謳歌できたことと思います」

●「三十周年へ前進」と浜口副会長ら

また活動を共にした港区バレーボール連盟役員や同連盟各チーム代表が献花台前に整列。代表して浜口伊知江副会長が「お別れの言葉」を読み上げました。その要旨は次の通り。

「創立当初より二十四年間、大変な苦勞をして今の連盟を作りあげて下さいました。藪下会長へバトンタッチされて一年半。まだまだ指導頂きたかったのに、今年の港南（秋野さんが所属していたチーム）の新年会が最後になるなんて。少し辛そつでしたが『春にはまた練習に行くね』とおっしゃったじゃないですか。それなのに四月頃から連絡がとれなくなり、五月十八日、『主人から訃報が届きました。お別れもさせてくれないなんて、あんまりです。みんな気持ちの整理がつかないまま今日まで来ています。でも体育館で誰かが言いました。『あ、萩さん来てはる』と。きつと真面目に練習してるか心配だったんですね。大丈夫ですよ。今日はこんなに多くの皆さんが萩さんを偲んで来て下さっています。淋しいですが、今日を区切りに気

←献杯の音頭をとる井上英孝衆議院議員①と、献花台の遺影に合掌する参加者②



持ちの整理をつけます。見て下さいね。港区バレーボール連盟は本日お越しの皆様の力を借りながら三十周年へ進んでいきます。そして港南OB（秋野さんが最後まで所属していたチーム）は今まで通り、気持ち一つに頑張っていきます。これまでの『指導に感謝しています』。また市内のママさんチーム「ニュージューピタ」メンバーも献花台前に並び、代表して谷澤容子さんが「萩野さんと一緒に練習や試合をしました。かなり上のチームとも練習試合できたのは萩野さんの交友関係の多さがあったから。監督もして頂き、その一言一言が今も胸に刻まれています」(要旨)と遺影に語りかけました。

●「厳しさと大らかさあった」と役員

参加者のうち接待役をしていた同連盟役員一人は「指導してもらえるのが当たり前で、鉄人は『指導してもらえぬのが当たり前』で、というイメージもあり、恢復を信じていたので、訃報には『つそ〜』と思いました」「港区のバレールの柱として、時には言いにくいことも指摘される厳しい面もありましたが、生活相談やスポーツ用品購入などには『ええよええよ』と引き受けて下さる大らかさ、距離の近さがありました」「個人的には私の恩をよく可愛がって頂いたこと、人材育成にも熱を注がれ、体育指導員にと声をかけて頂いたことなどが思い返されます」「生前に何もお返しできなかったこと



→萩野さんの生涯を振り返ったスライド上映①
と、故人を偲んでの和やかな懇談風景②

に悔いが残りますが、藝下会長や浜口副会長のもと、迷惑をかけないよう付いていきたいと思っています」などと話していました。

●スライドで人生ふりかえる

また、あるチームの選手は「会長を降りられたままだと元気な時に感謝の催しを持てなかつたかと悔やまれます。今後はその『遺志を引き継ぐ意味でも、キャプテン会議を定期的に開いて連盟内の『コミュニケーション』をより密にする」とや、『独身は三十五歳以上』という加盟条件を外して選手層を広げることなどが求められるのではないだろうか」と話していました。

このほか懇談会では故人の生涯を振り返るスライド上映も行なわれ「私を支えてくれた全ての人達にありがとう」のタイトルに始まり、生い立ちから青春時代、結婚を経てママさんバレーに至る人生の幾「マが名曲『時代』に乗って流れ、最後に「全ての人が幸せでありますように」の言葉で結ばれる約四分間の映像に、来場者は改めてその生前を偲びました。

故人略歴 一九四三年八月、大分県田田市生まれ。小中学校時代に健康優良児表彰。中学で

「港区バレールボール連盟二十周年誌の準備に忙しかった頃の萩野久美子さん」二一年九月



バレール部に所属、県立田田高でも続ける。卒業後上阪。事務職を経て二十三歳で結婚、一児を出産。長女が小学二年の時に腎臓病を患い「余命一年」と宣告されるもPTAバレーで克服。翌年港区へ。三先小P、港南中P、港南OBで活動。九一年港区バレールボール連盟設立と同時に事務長、九八年から副会長、〇一年から一四年まで会長。この間、大阪府家庭人バレールボール連盟副会長、港区体育指導委員会会長、みなとすぽーつくらぶ会長、港区体育厚生協会会長など歴任。一五年五月、癌のため逝去。享年七十一。本紙『人物列伝』（二一年）では、バレールの魅力は「個性の和」にあり、地域バレールでは「家庭との両立」が大切なことを強調。

日々平穩のありがたさ

石炭倉庫「駅前人情旅館」に反響



→貧乏長屋が旅館に变身する物語を通じて日々平穩のありがたさに気づかせてくれた『駅前人情旅館』の一場面。10月下旬、石炭倉庫

涙と笑いの人情喜劇『駅前人情旅館』が十月

フリースペース

下旬に波除の自由空間「石炭倉庫」で上演され、「日々平穩のありがたさに気づかせてくれた」と好評でした。石炭倉庫を拠点に庶民の温かさや時代への風刺を込めた芝居を世に問い続ける『へうげたより』一座の第三十七回公演。座付き作家だった故・綾羽一紀氏による「七軒長屋物語」シリーズから、あながいおまる座長が演出。出演は「ミッシー」原本、道野孝、後藤肇昭、榎谷栄治、くめくめ、ゆづり、岡田淳子、阿部桂子、山本恵ほかの各氏。音響・照明は八上和裕氏。犬の銀河が特別出演。

◆貧乏長屋が旅館に变身

——大阪・下町の七軒長屋。ある夜、独り者で気のいい大家の寢床に絶世の美女が現われて消える。この事件を機に物語は展開する。何年も家賃を滞納されて生活に窮した大家は空き家を利用しての旅館業を思いつく。従業員は太工のクマ、料理人のハチラ、腕はいいがどこか抜けた店子たち。一泊「食付」三千円を「二百円」と書き違えたことから早速お客が舞い込む。家へ帰らない主人への抗議に家出てきたものの

ひったくりに遭った母と娘。何かに追われている男性と能天気な女性のカップルも同じ被害に遭って投宿。さらに元警察官の私立探偵も。やがて探偵はカップルの男性をかつての警察不祥事のホシと見抜き、母娘は探偵を主人と気づく。一触即発の三角関係。そこへ大家が割って入る。「そんなや、ええやないか」。その一言で緊張は解れ、一件落着。探偵の手配で二組のお金も戻ってきた。その後、部屋は粗末でも料理は一流、どこか懐かしいこの旅館は「駅前人情旅館」として全国に名を馳せ、繁昌を極める。あの美女は福を呼ぶ弁天様だったのだ——。

◆伝わってきた「明日は好日」

深刻な事態にも呑みこみ情ある接待を貫く長屋住人の姿から「明日は好日」という作者の理想が伝わってきました。大家と探偵が酒席で交わす「嫌な世の中になりましたな」との会話は金と力が幅を利かす現世への痛烈な警鐘。また自ら楽しむような役者の演技、軽快な007の主題曲、俳優が動く回りの舞台、犬の生出演など、故田中徳三・元大映監督の演出で発足した同一座二十年の伝統と遊び心が生きていました。

演劇ガイド

● あんがいがおまる一座『森の怒り』 波除のフ

リースハース「石灰倉庫」を拠点に庶民の優しさや逞しさ、社会的メッセージを込めた演劇を世に問い続けるあんがいがおまる一座のスタジオ公演。木々の上を、森の上を高く飛びとぎ、人が傲慢から作った国境は見えない。誰のものでもない自然を、人の我欲で殺してはいないだろうか。石上玄一郎の名作(中央公論掲載)を同一座の座付き作家であった故・綾羽一紀さんが脚本化。あんがいがおまる座長が演出。劇中歌曲を北野隆さんが作曲。神野翼さんが美術。八上和裕さんが音響・照明。梶岡志保さんが歌唱指導。出演は真田克幸、ヨシシー原本、はらいわお、くめくめ、八上祐子、道野学、後藤基昭、阿部祥子、金田光子ほかの各氏。十一月二十二日(日)十四時、二十三日(月)初十三時、十五日、二十九日(日)十三時、十五日、十二月五日(土)十四時の六回公演。前売 千五百円、当日三千円、学生千五百円。十一月十四(火)～二十七日(金)の十一～十七時、十一月三十日(月)～十一月四日(金)の十一～十七時に「神野翼

舞台美術展」を開催(鑑賞無料)。詳細問い合わせ。申し込みは会場の石灰倉庫(波除六・五・一八、JR井田駅から国道四二号を北へ直進、安治川堤防突き当たり右すべ。 ☎六五八一・〇六八四、FAX六五八一・二六七〇、チケット専用フリーダイヤル〇二二〇・三三四二・三九へ。 読者プレゼントあり

● 井田町オーック200生涯学習センター『冬休みでもOH!笑い塾』参加者募集 子供たち

による子供たちのための喜劇ワークショップ＆発表。大阪市出身の放送作家・砂川一茂さんが「人を笑わせ、自分も元気に」「喜劇はチームワークと「コミュニケーションやで」と喜劇のコツを優しく楽しく伝授。十月二十五日(金)、二十八日(土)の十四～十八時と二十七日(日)十～十五時の全三回(最終日はリハールと十四時から発表会)。対象は小学生以上(二日間全て参加できる人。大人の同伴参加も歓迎)。参加費千三百円(保険・資料代込)。先着二十名(定員に達し次第締め切り)。 ☎六五七七・一四一〇。

ライブガイド

● 八幡屋出身のロックドラマー 桐田勝治さん

日本のハードロックバンドのトップを走り続ける人気バンドに所属。「周りを元気づける灯台のようなミュージシャン」として演奏に磨き。港中学校出身▽所属バンド「ガー・イル」の十八枚目のアルバム『解識』(渦巻く太陽「直撃」満開オラシヨ「翼の記憶」厭離穢土など十一曲)が好評発売中。三三〇〇円。 ☎〇三・三三八二・九一八〇ファーストセル▽十一月四日(金)十九時・五日(土)十八時半からゼップなんば大阪(浪速区敷津東一・二九)地下鉄御堂筋線・四ツ橋線「なんば」駅十二分、地下鉄堺筋線「恵美須町」駅①B十分、地下鉄御堂筋線・四ツ橋線「大國町」駅①七分、 ☎六六三・〇八五三三で所属バンド「ザ・クロマニヨンズ」のツアーライブ「ジャングル」に出演予定。 ☎六三三七・四四〇〇サウンドクリエーター▽十一月十一日(金)十九時から江坂ミューズ吹田市豊津町一〇・一五ライブプラザブルーミン五階 地下鉄御堂筋線「江坂」駅②五分 ☎六三三八七・〇二〇二二で「ガー・イル」のワンマンライブ「暮れ「イル」」に出演予定。

●三先のフォーク歌手ペドロ上村さん^{かみむら}切断フ

ラザース(左手親指切断体験を持つ三人で結成のリーダーやソロで温かなオリジナルフォークソング▽毎月第一・三木曜 千時からバー「ザセラ」(中央区西心斎橋 一・一七・二三新スミヤビル地下、☎六二二・六四三七)で「アメリカ村フォークジャンボリー」主宰▽毎月第一火曜 千時半からバー「ロージー」(中央区西心斎橋 一・九・五口宝三ツ寺会館地下二階、☎六二二・三九九九)で開催のノンジャンル企画「ライブにレギュラー出演」▽毎月第三火曜 千時から「かつおの遊び場」(中央区宗右衛門町四・五 宗右衛門町センタービル二階、☎〇九〇・五八八・一七〇二五)で開催のノンジャンル企画「ライブに切断フラザースとしてレギュラー出演」。



← 桐田勝治さん(上)とペドロさん(下)

← 花☆キャラの演奏風景



●市岡元町の音楽ユニット「花☆キャラ」ポッ

プスから沖縄民謡まで生活に根ざした明るく前向きで分かりやすいオリジナルソング▽CD『マルゲリータとトマトパスタ』あなたらしくあたらしく『好評』Eメール k a o . h a n a k y a r a @ y a h o o . c o . j p HPは

「花☆キャラ」で検索 港新聞HPからリンクも。

●華・ふたつ代田幸子・谷紗矢香 ツーマン

LIVE 港区在住のシンガーソングライター 代田幸子さんと大阪在住のシンガーソングライター 谷紗矢香さんが愛と平和のオリジナルソングを歌うシリーズライブの三回目。道頓堀・かつおの遊び場(中央区宗右衛門町四・五 宗右

← 代田幸子さん(上)と谷紗矢香さん(下)



衛門町センタービル 階、☎〇九〇・五八八二・七〇二五八周年月間で三先のフォーク歌手ペドロ上村さん(前出)が企画。十一月十七日(火)十九時半からかつおの遊び場で。チャージ 一千円(一飲物付)。

記念写真は写真館で

誕生日も父の日も お宮参りも百日も

みなさまの写真スタジオ

三上写真館

Photo Studio MU

三上写真館

磯路2-3-14 (市岡中前) 木曜定休

☎0120-813788

http://www.photostudio-mikami.com

至 弁天心頭

港消防署 弁天町駅

港民センター 弁天大通り

三上神社 市岡中学

至 朝潮橋

ココ 至 みなと通り

迫力の風景画大作

川島恵美子さん作品展にぎわう



→ 絵画について語り合う川島恵美子さん（こちら向き左から二人目）と来場者 10月17日、三先の画廊「ガレリア・リバリア」で

平和の願いをキャンバスに込め、リアリズム（写実主義）を貫いて絵画人生を送ってきた八幡屋在住の画家・川島恵美子さん（八五）が、みなと通の画廊&アトリエガレリア・リバリアで十月十日〜十八日、五十三回目となる作品展を開催。区内外から訪れた多くの人々が、風景画の大作などに見入っていました。

出品されたのは、中国の黄土高原や南米の高地などを描いた油彩風景画の大作九点をはじめ、故郷の兵庫県西播州やブータンなどを描いた水彩画、モロッコの砂丘を描いたパステル画、旧ソビエトの教会などを描いた銅版画（エッチング）など、新旧合わせて二十数点。

◆ アンデスの貧しき逞しさ

このうち『ラパス』（二〇〇〇年、一九九〇年）は、ボリビアのアンデス高地を描いた油彩の大作。「標高三千メートル、薄い、埃っぽい空気の中、上の方には貧しい人たちが住み、下の方には比較的裕福な人たちの住居があったのが心に残っています」と川島さん。ほろ茶系一色に霞んだ光景の中に、この地に生きる人たちの素朴さや逞しさが滲み込んでいます。

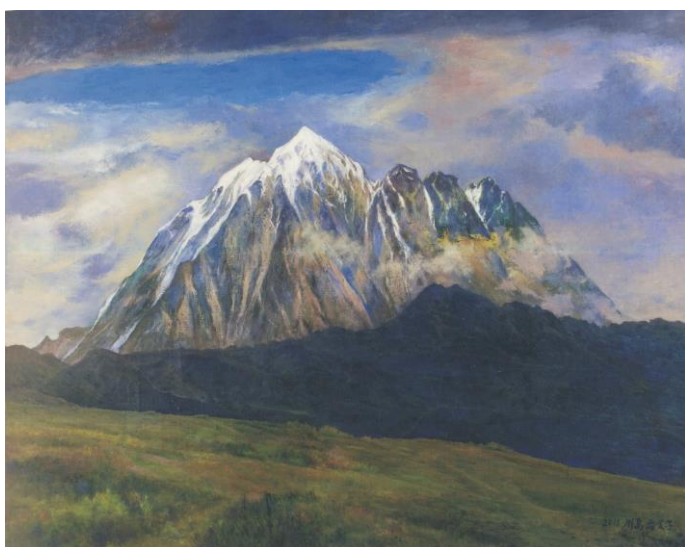
「ボリビアのアンデス高地を描いた『ラパス』。茶系に霞む風景の中に、この地に暮らす人々の素朴さや逞しさが滲み込んでいた」



◆ 山容に凝縮された大自然の神性

『亜拉神山』（二〇〇〇年）は、二〇〇六年八月に友人と訪れた中国西部の高原に聳える山をスケッチし、二〇一一年に仕上げた油彩の大作。「雨のあと、祈って祈ってようやく雲が切れ

た瞬間に現われたのは、剣を束ねて天を指したような神々しい姿。ツァーの運転手に急かされながら大急ぎでスケッチしました」と川島さん。その晴れ間へ向かって、まるで地底から突き上げるかのように聳え立つ山容に、大自然の



→中国西部の高原に聳え立つ山を描いた『垂拉神山』。剣が天を突き刺すかのような姿に大自然の神性が凝縮されていた

神性が凝縮されているようにでした。

◆ 悠久の歴史、自然の雄大さ

また『交河故城』（五〇号）は、二十年ほど前に訪れた中国西北部のトルファンでスケッチした古代遺跡を最近になって仕上げた油彩画。

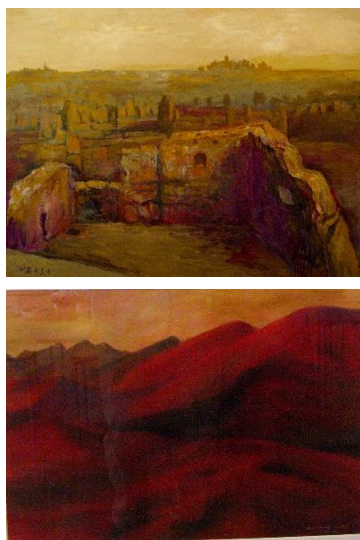
同地はシルクロードの要衝・楼蘭や敦煌の北方天山山脈の東方に位置する広大な盆地。夕陽を浴びて赤く黄色く浮き上がる遺跡の「こころ」した感触に、古代中国の悠久の歴史、そして現在の静寂と荒涼が感じられました。

また『メルズーカ大砂丘』（二〇〇〇年八月）は、モロッコの夜明けの砂漠を描いたバスティ画。「朝未だき、真つ暗な砂丘をジープで訪れ、太陽が顔を出した僅かの時間を捉えてスケッチしました」と川島さん。朝日と共に目覚め、赤黒い大気と溶け合いながらゆったりと波打つ砂のぼんやりした陰影に、自然の雄大さ、大らかさが感じられました。

◆ 平和願い、最後の一点めとして

そして、こつとした出品作にまつわる話をまとめるかのように川島さんは「まだ体力のあるうちにできるだけ行ける所へ行ってスケッチして

←中国西北部トルファンの古代遺跡の夕景を描いた『交河故城』①と、夜明けを待つモロッコの砂漠を描いた『メルズーカ大砂丘』②



おき、それらを少しずつ仕上げています。描く時にはそこに暮らす人々を思い、祈りながら筆を動かしています。多くの方のお力添えで好きな絵を続けられたことに感謝しつつ、これからモ写実主義を貫き、平和を願い、画家として最後の一点めとして努力を続けたいと思っています」と話していました。

展示全体を通じて、国内外の美しく力強い自然の姿を、そしてその裏にある人間の営みを、できる限りありのままに描き留め、後世に伝え残していこうという川島さんの一貫した姿勢が感じられました。

ほっこり個性溶け合う

ギャラリーはたなか まいど六人展



→個性が溶け合った「まいど六人展」。左から異折田、イシマル、川端、佐木、広瀬(世話役)、前田の各氏。十月四日、ギャラリーはたなか

大阪市職員OB画家六人が十月上旬、港区役所前のギャラリーはたなかで『まいど六人展』と題する合同作品展を催しました。この六人は市OB画家約四十人が天王寺区の上本町ギャラリーで毎年開いている『まいど美術展』の中心メンバー。それぞれ独自に活動しながら、こつこつと不定期にグループ展を開いています。

●「物語を表現したい」とイシマルさん

このうちイシマルヒデさん(七四)は、西淀川区役所に勤め始めた十八歳から通信教育や塾で絵を学び、長年、漫画を中心に活動。退職後はボケ防止に(笑)この思いもあって創作を続けてきました。今回は水彩画二点を出品。このうちステンレス鍋とその側面に像が映る林檎を繊細なタッチで描いた『映る』からは、何気ない日常に息づく生活の温もりが感じられました。イシマルさんは「あくまで軸足は漫画に置いています。どの絵からも人の喜怒哀楽や物語を感じてもらえたら嬉しいです」と話していました。

●「観た人が癒されるように」と川端さん

川端輝夫さん(七三)は区役所勤務で定年を迎え、その数年後に絵を始めて十年。専ら油

「イシマルヒデさん作『映る』①と川端輝夫さん作『静物』②(いずれも部分)」



彩を手掛け、今回も油彩の静物画二点を出品。

このうち花瓶入りの薔薇をルノアール風の巧みなタッチで描いた『静物』からは、その背後にある静謐で温かな生活風景が目に見え、うでた。川端さんは「気持ちが癒されるような絵を心がけています」と話していました。

●「自然の美を表現したい」と異折田さん

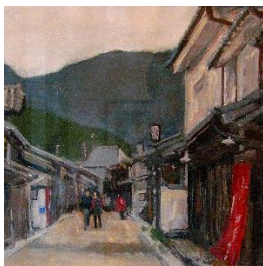
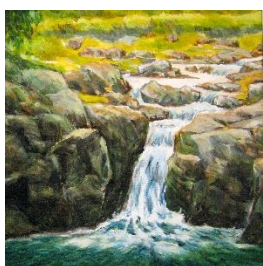
異折田啓四郎さん(七二)は建築局、計画局、住宅局などに勤務。絵は子供時代から好きでしたが、定年を前に折田さん(後述)の絵の運搬を手伝ったのを機に興味が深まり、以後、水彩を中心に描いてきました。今回は風景画二点を出品。

このうち力強い筆遣いで奥山の渓流を描いた『深谷(竜田川)』からは、岩間を流れ落ちる水

の爽やかな瀬音が聞こえてくるようでした。巽さんは「大阪生まれの大阪育ちなので、絵では「ソフリの街には見られない自然の美しさを表現したいと思っています」と話していました。

●「土地の雰囲気感じて」と佐木さん

佐木義輝さん（六八）は、経理局や都市整備局勤務を経て退職。絵は三十代から職場仲間とスケッチ旅行などしながら続け、これまでに地方の街並みを描いた白鳥の大作や油彩人物画などを手掛けてきました。今回は水彩風景画四点を出品。このうち三重県の旧宿場町をやや粗めのタッチで描いた『関宿』からは、山間の町の静寂な空気が流れてくるようでした。佐木さんは「観た人にその土地の雰囲気を感じてもら



→ 巽啓四郎さん作『溪流（竜田川）』⑤と佐木義輝さん作『関宿』⑦（いずれも部分）

えるよう意識しています」と話していました。

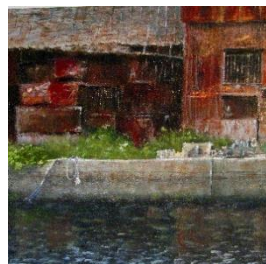
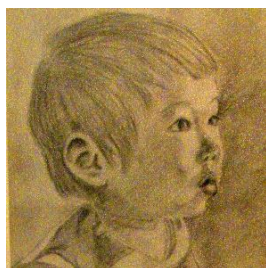
●「人物感じられるように」と前田さん

前田寛さん（六八）は、区役所→保健所→区役所と勤務して退職。絵は四十歳を過ぎた頃、長女を描きだして始めたとか。二十年前からは主にパステルで人物を描いてきました。今回も人物を題材にパステルなどで二点を出品。このうち幼い男児を鉛筆で描いた『お母さんと一緒』からは、一心に母親を見つめる幼い息づかいが伝わってくるようでした。前田さんは「観た人がその人物を感じてもらえるような絵を心がけています」と話していました。

●「油彩に負けない水彩に」と折田さん

折田透さん（六八）は、住宅局や計画調整局などに勤務して退職。絵は二十年前に始め、主に水彩で描いてきました。今回は水彩の風景画二点を出品。このうち虎無川べりの風景を力感もるタッチで描いた『川沿いの工場』からは、瓦倉庫の外壁の荒れや雑草の匂いまでが目の当たりに感じられるようでした。折田さんは「油絵に負けない力強い水彩画を描くこと、いつも心がけています」と話していました。

← 前田寛さん作『お母さんと一緒』④と折田透さん作『川沿いの工場』⑦（いずれも部分）



●「南市岡の故・岸本安司さんが呼びかけ

なお、この六人が関わる「まいど美術展」は、やはり市職員として保健所などに勤務しながら絵画を続け、社会への警鐘や日陰者への愛着を込めた独自の画風を貫きつづ、一〇二三年三月に八十三歳で亡くなった南市岡の岸本安司さん（本紙）二〇二二年十月～二〇二三年三月に絵画ラム連載の呼びかけで三十一年前にスタート。数年前からはこの六人が中心となり、日常的にも関西水彩画会などを通じて交流を重ねながらレベルアップを図ってきました。そんな友情の温もりも加わり、会場には個性的な絵の数々が奏でるアンサンブルと共に、何とも言えぬほっこりした空気が漂っていました。

文化的イベント案内

みなとカルチャ

● 港図書館

①図書展示「食育の本」展②十一月

月十九日(日)まで開催中。生きるために欠かせない「食」について見直し、心豊かな食生活のために食に関心をもってもらえるような本を展示②あかちゃんのおたのしみ会③毎月第一金曜日(十一月は四日)の十一時～十一時半に絵本コーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。毎週のおたのしみ会より赤ちゃん向け。申込不要③おたのしみ会④毎週水曜日十五時半～十八時に絵本コーナーで。幼児から小学校低学年を対象に絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアターなど。十一月十三日は祝日のため休み。申込不要▽五七六・一三四六。

● 関西フィルハーモニー管弦楽団「第九」特別

演奏会 年末恒例の「第九」コンサート。今年は

「voor Gott - 神の前に」…山下一史 かすいみの『第九』と題し、世界で活躍する山下一史さんの指揮で。山下さんは一九七七年桐朋学園高

校音楽科に入学。チェロを井上頼豊氏に、指揮を小澤征爾氏らに師事。八四年桐朋学園大学卒業後、ベルリン芸術大学に留学。八五年からカラヤンが亡くなるまでアシスタントを務め、八六年ベルリン・フィル演奏会で急病のカラヤンの代役としてジーンズ姿のまま「第九」を指揮し話題となった。以来、ヨーロッパでの実績を重ね、国内でも主要オーケストラに定期出演。今回の「第九」演奏にあたり『私たちは神のもとにおいて兄弟なのだ』という『第九』のメッセージは時代を超えた普遍性を持っています。『第九』は私たちにとってもベートーヴェンにとっても特別な意味を持つ楽曲。聴覚を失い、死を



→ 関西フィル「第九」特別演奏会で指揮を担当する山下一史さん (© K. Mura)

← 関西フィル「第九」特別演奏会でソプラノを担当する川越塔子さん (© ミューズエンターテインメント) ①と、アルトの山田愛子さん ②



も覚悟し、絶望の淵にある彼に『生きたい』と強く願わせたのは、まさに音楽の力でした。『第九』にはそんな巨大なエネルギーが秘められているのです」とのコメントを寄せている。出演



→ 関西フィル「第九」特別演奏会でテノールを担当する藤田卓也さん (© 木寺) ①と、バリトンを担当する田中勉さん ②

は他にソプラノ：川越塔子さん、アルト：山田愛子さん、テノール：藤田卓也さん、バリトン：田中勉さん、合唱：田辺第九合唱団。演奏曲目は

①バートーヴェン：「エグモント」序曲 作品84 ②バートーヴェン：交響曲第9番 二短調 作品125「合唱付」。十一月十二日(日)十四時半

からザ・シンフォニーホール(JR環状線福島駅)から北へ歩約七分で。十四時十分から指揮者：プレトック。S席六千円、A席五千円、B席四千円、C席三千円、学生席(二十五歳以下)千円、全席指定：消費税込。☎六五七七・二三八一。

● 弁天町ORC200生涯学習センター「オーク弁天寄席」 旧・弁天町市民学習センター時代から長年親しまれた人気イベントの再開第十

回は、通算第五一回。十一月二十五日(水)十

九時二十時半に講堂で。出演は笑福亭學光さん(徳島出身の落語家、笑福亭鶴光門下)と旭堂南麟さん(大阪出身の講談師、旭堂南陵門下)をレギュラーに、今回は桂坊枝さん(大阪市旭区出身、故五代目桂文枝の弟子、林家笑丸さん(大阪府交野市出身、林家染丸の弟子)も。先着目一十名。当日五百円、前売四百円。

十一月は九日(水)の同時刻に同会場で開催予定。オーク弁天寄席の会と同センターが主催。ORC200店舗会が協賛、ラジオ大阪が協力。☎六五七七・一四二〇。

● 弁天町ORC200生涯学習センター「クリスマスコンサート2015」 旧・弁天町市民

学習センター時代から毎クリスマス季に好評だった関西フィルハーモニー管弦楽団の弦楽五重奏メンバー(ヴァイオリン二人、ヴィオラ、チェロ、コントラバス)「哲学の道プロムナード・コンサート」の仲間たちによる演奏会。第一部は『弦楽器のための名曲特選』と題してシベリウス：アンダンテ・フェスティーヴォ、モーツァルト：セレナード長調K.525「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」を。第二部は『映画音楽名曲特選』と題してアービッド・ハウエル編曲による『風と共に去りぬ』『タイムリフト』『荒野の七人』『いそぎ』『ひまわり』『タイタニック』『ニュー・シネマ・パラダイス』『パイレーツ・オブ・カリビアン』『アナと雪の女王』『ホワイト・クリスマス』を。十一月二十一日(月)十五時半と十九時の二回、講堂で。入場料千七百円(前売千五百円)、小中学生九百円。定員各回百二十名。小学生以上が対象。☎六五七七・一四二〇。

● ねじやらのシャラン☆カフェ 懐かしい歌に老いも若きも声を合わせる月例イベント。毎月第四土曜十四時から港近隣センター(八幡屋一・四・一〇)で。不定期にゲストを迎えリ



→オーク弁天寄席にレギュラー出演する笑福亭學光さん①と旭堂南麟さん②

←第三二回オーク弁天寄席に出演する桂坊枝さん①と林家笑丸さん②



「過去の「ねじやらしのシャンテ☆カフェ」



クエスト中心に約 1 時間。新オリジナル歌集を頒布中。参加費千円(税込)。十一月は二十八日。問い合わせは「ねじやらし音楽事務所」(井天四一・二一・三〇二、☎五五五・六八二八、<http://necoojyarasii.jimdo.com/>)まで。

●ガットネロ 市岡在住の社会派シャンソン

歌手・松浦由美子さん主宰の音楽喫茶。「シャンソン百物語」「HAMORRI・BEEのつた★カフェ」「クラシックカフェ」など毎月多彩な企画▽クラシックカフェ第百八十三回(十一月四日(金)十九時から)年の瀬をヴァイオリンとピアノの名曲と共に」と題して吉矢千鶴(ヴァイオリン)・多田安希子(ピアノ)がグループ・ベート

「ヴェンなど。会費 千円(定員十五名、要予約)

▽みどりの・みどりの人権ライブ2015(十一月十三日(日)十三時から。みどりの・みどりの歌・構成、古城造子のピアノで。参加費二千円▽ガットネロ実験劇場第十四回「エディット・ピアノ」(十一月二十日(日)十九時から吹田メイシアター小ホールで。生誕百年のピアノのシャンソンの名曲と人形のコラボ。出演は松浦

由美子(歌)、藤田稔(ピアノ)、西島加寿子・高平和子(人形劇団クラルテ)。演出・台本はひがしあゆみ(東口次登同)。一般三千円(当日三千五百円)▽HAMORRI・BEEのつた★カフェ第二十五回(十一月二十三日(水)祝十一時、十五時、二十四日(木)十五時、二十五日(金)十一時、十五



→ガットネロを主宰する松浦由美子さん(上)と「つた★カフェ」出演のHAMORRI・BEE(下)

「クラシックカフェ」に出演するヴァイオリンの吉矢千鶴さん(上)とピアノの多田安希子さん(下)



時の全五回(各六十分、休憩なし)。「いろ・色・彩」でつづる日本の歌をテーマに若手テノールデュオ(中川公志&小原有貴)が日本の懐かしい歌を。ピアノは古谷優子、福本由美。会費各千五百円(一飲物付)・要予約▽詳細はガットネロ(天王寺区上本町六・二一三七、地下鉄谷町九丁目駅④出口、☎六七七・〇〇二二)へ。

●ギャラリーはたなか「モンキー岡田よしたか絵画展」

十一月十九日(木)〜二十九日(日)の十一〜十九時(最終日十七時まで。二十五日(水)休廊。十一月十日(木)〜二十日(日)は「ZEN GARDENS 旗谷吉貞 油彩画展」(時間は岡田展と同。十八日(水)休廊。磯路二一・一五(港区役所向かい)。☎六五七二・五九八七。

←ギャラリーはたなかに展示される岡田作品

(部分)①と風庵に展示中のツールペイント②



●ぎやらりー&かふえ風庵(コノミティブ・ヘインティングアトリエマトリカリア作品展)

ヨーロッパからアメリカへ移民と共に持ち込まれた伝統的装飾技術を土台に、木、ブリキ、ガラス、布、キャンバスなどあらゆる素材に絵を描く芸術「ツールペイント」を手がける「アトリエマトリカリア」の伊藤哲子さんが、この間に創作した作品の数々を展示・販売。「お部屋に飾ったり、暮らしの中で活用したり、お気に入りを見つけてください」と伊藤さん。十一月二十八日(土)まで開催中。風庵は南市岡三・二一〇(繁栄商店街内)、☎四九八五・五九八・十時〜十八時開館(日曜定休)。

ひとくちPR

(二行||税込二〇〇〇円、写真は別料金相談)

●**子どもの学習がかわる！** 右脳活性化

見直される効用。それは、教育は情緒を安定させ、学習意欲を高めます。「生きる力」「学ぶ力」も強めよう。森友総合教室(検索) ④四二・一三七三津神社西側 ☎八五七二・一六八七七。

●**新しい学びの世界へ！** チーム学習によって「全員ができる」をめざす画期的な学習スタイル。小〜高二。月謝は週一回で実質六千円。NPOが運営。問合せはメールで「学び合ひスクール 繁栄商店街」(info. ubiquitous. adv@gmail.com)へ。

●**新しい作業所でお仕事しませんか** 障害者手帳を持ち一般企業で働くのが困難な方。喫茶又は軽作業。就労支援B型作業所相談支援事業所わたぼうし(④四二・一八・一〇、☎八五七六・一〇〇、FAX六五七六・一〇二二)。

●**石炭倉庫のレッスン** 吉津たかし先生の所作レッスン(毎週木曜十九〜二十一時、志保先生の歌唱レッスン(毎週火曜十九〜二十一時)、あんがいおまるの朗読教室(毎週水曜十四〜十

←石炭倉庫の吉津たかし先生①と志保先生②



六時、河野明夫の三味線を習おう(毎月第一・三月曜十八〜十九時半。一回千円。波除八・五・一八、☎八五八一・〇八八四)。

●**放課後・春夏休みは児童保育へ** 入所見募集。指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを指導。体験可。携帯〇九〇・五八九一・〇三四(西原) ☎八五七二・一八四三あおぞら児童。

●**児童保育で放課後・春夏休みを** 指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを指導。入所見募集。体験可。☎八五七五・〇三三五ありんこ。

●**介護のことはお任せ** ①介護・老いの相談②介護手続き代行③デイサービスは送迎付で入浴・食食・手芸・カラオケなど④訪問介護は買物・掃除など。NPOみなと合同ケアセンター(南市岡三・六・一六、☎八五八三・四八八〇)。

●**あなたのふとんが生まれ変わる** わた 綿も羽毛

も掛も敷も、熟練職人が心込めて仕立て替へ。

シングル掛(敷)一万円。理想の枕つくり、ブライダルふとん選びもお任せ。ふとん館ひらの(繁栄商店街) ☎〇二〇・四二四九・五五。

●ボクササイズでシェイプアップ 女性も小・

中・高生も楽しく練習。月会費八千円(三カ月期限十枚綴りチケット八千円)。入会金一万円を只今半額。練習日は月・水・金の十九時半〜二十一時半。港ボクシングジムは三先一・二三・九。

●囲碁クラブ 毎月第一・四十曜の午後二〜五時に港近隣センター(八幡屋一・四二〇)会議室で。参加費二回五百円。家族的雰囲気。 ☎〇九〇・二二九八・八四四三 瀬戸。



→ 港ボクシングジムのトレーニング風景(三先一) ①と囲碁クラブの対局風景(港近隣センター)

●おしゃれ着いつぱい 神戸メーカー直送、お

出かけ着から普段着・肌着まで。サイズ豊富。プティック・ミント(八幡屋一・四一八、入舟公園前、大阪信金横、十〜十八時営業、日月定休)。

●レンタルフリーボックス 一カ月千二百〜千

八百円。鍵付きガラスケース、棚上陳列スペースなどの月極レンタルも。コスメハウス ナナイロ(繁栄商店街) ☎八五八六・二九五。

●何でも書きます、まとめます 手紙・司会などの文案。自分史・社史などの聞き書き。新聞・会報などの取材。ホームページ作成・記帳代行など。 ☎八五七一・四六三六 飯田編集事務所。

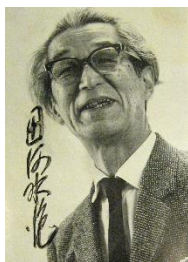
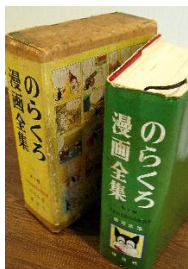
咖啡館 隠岐
おいしいおいしい! 炊きたてコーヒー
マスターおすすめ! 手作りハンバーグ
営業AM7:00~PM5:00 (休)毎週月曜日
磯路3-25-6 ☎6575-3051

健康マージャン教室
賭けない! 飲まない! 吸わない!
マージャンひろ 磯路3-25-3 ☎6574-6643
喫茶おき2F

ひとくち伝言板

●「のらくろ漫画全集」買って下さい 戦前爆

発的人气を博した田川水泡の名作の全一巻全集。サイン入り写真付。四十年前に四千五百円で購入も胃療治療費捻出のため高値買い受け希望。 ☎〇九〇・八二四一・二六四二 吉村公一。



読者プレゼント

※いずれもハガキに今月号の感想とプレゼント名を書いて二十日必着で港新聞へ。

●関西フィル「第七」特別演奏会(みなとカルチャー)招待券をヘア一組に。

●「オーク弁天寄席」(みなとカルチャー)招待券をヘア一組に。

●あながいおまる一座『森の怒り』(演劇カイド)招待券をヘア一組に。

●ガットネロ実験劇場「エディット・ピアフ」(みなとカルチャー)招待券をヘア一組に。